

基本計画書

基本計画書								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	コリツダガクカウジンウツミダガク 国立大学法人 宇都宮大学							
フリガナ大学の名称	ウツミダガク 宇都宮大学							
大学本部の位置	栃木県宇都宮市峰町350							
大学の目的	<p>宇都宮大学は、豊かな自然資源を有し幅広い産業が展開する北関東栃木県に立地し、地域デザイン科学部、国際学部、共同教育学部、工学部、農学部の5学部から成る中規模の国立大学である。栃木県で唯一の国立大学として地元から高い期待を受け、多様で豊かなフィールドを活用した実践的な教育・研究による人材の育成を行っており、地域からも厚い信頼を得ている。</p> <p>広く社会に開かれた大学として、質の高い特色ある教育と研究を実践して、人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する。そのために、①幅広く深い教養と実践的な専門性を身に付け、未来を切り開く人材を育成し、②持続可能な社会の形成を促す研究を中心に、高水準で特色のある研究を推進し、③地域社会のみならず広く国際社会に学び貢献する活動を積極的に展開する。</p>							
新設学部等の目的	宇都宮大学データサイエンス経営学部は、データサイエンスの素養を持ち基礎的経営学をベースに実践的な知識を身に付け、これらを総合的に活用して課題解決や意思決定、価値創出に繋げる能力を有する人材を育成することを目的としている。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	データサイエンス経営学部 データサイエンス経営学科	4年	55人	3年次 3人	226人	学士（経営情報学）	令和6年4月 第1年次 令和8年4月 第3年次	栃木県宇都宮市峰町350 栃木県宇都宮市陽東7-1-2
	計		55	3年次 3	226			
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）	<p>・入学定員の変更</p> <p><u>地域デザイン科学部</u></p> <p>コミュニティデザイン学科 [定員減] (△3) (令和6年4月)</p> <p>建築都市デザイン学科 [定員減] (△3) (令和6年4月)</p> <p>社会基盤デザイン学科 [定員減] (△3) (令和6年4月)</p> <p><u>国際学部</u></p> <p>国際学科 [定員減] (△6) (令和6年4月)</p> <p><u>工学部</u></p> <p>基盤工学科 [定員減] (△25) (令和6年4月)</p> <p><u>農学部</u></p> <p>生物資源科学科 [定員減] (△5) (令和6年4月)</p> <p>応用生命化学科 [定員減] (△2) (令和6年4月)</p> <p>農業環境工学科 [定員減] (△2) (令和6年4月)</p> <p>農業経済学科 [定員減] (△3) (令和6年4月)</p> <p>森林科学科 [定員減] (△3) (令和6年4月)</p> <p>(農学部共通3年次編入学定員) [定員減] (△3) (令和8年4月)</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	データサイエンス経営学部 データサイエンス経営学科	講義	演習	実験・実習	計			
		143科目	55科目	3科目	201科目	124単位		

教 員 組 織 の 概 要	学部等の名称	専任教員等						兼任 教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設分		人	人	人	人	人	人	人
	データサイエンス経営学部 データサイエンス経営学科	9 (9)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	209 (209)
	計	9 (9)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	— —
既	地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科	6 (6)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	183 (183)
	建築都市デザイン学科	5 (5)	4 (4)	0 (0)	4 (4)	13 (13)	0 (0)	178 (178)
	社会基盤デザイン学科	5 (5)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	174 (174)
	国際学部 国際学科	17 (17)	8 (8)	0 (0)	6 (6)	31 (31)	0 (0)	188 (188)
	共同教育学部 学校教育教員養成課程	25 (25)	18 (18)	0 (0)	16 (16)	59 (59)	0 (0)	176 (176)
	工学部 基盤工学科	33 (33)	30 (30)	1 (1)	23 (23)	87 (87)	0 (0)	180 (180)
	附属ものづくり創成工学センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	7 (7)
	農学部 生物資源科学科	8 (8)	8 (8)	1 (1)	5 (5)	22 (22)	1 (1)	189 (189)
	応用生命化学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	192 (192)
	農業環境工学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	190 (190)
	農業経済学科	4 (4)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	9 (9)	0 (0)	197 (197)
	森林科学科	4 (4)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	9 (9)	0 (0)	170 (170)
	附属農場	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
	附属演習林	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	大学教育推進機構	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	地域創生推進機構	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	就職・キャリア支援センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	イノベーション支援センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	宇大アカデミー	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	雑草管理教育研究センター	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
	バイオサイエンス教育研究センター	2 (2)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
	オブティクス教育研究センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	機器分析センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	基盤教育センター	1 (1)	3 (3)	0 (0)	7 (7)	11 (11)	0 (0)	35 (35)
	留学生・国際交流センター	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	5 (5)
	情報通信基盤センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	保健管理センター	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
分	計	132 (132)	109 (109)	3 (3)	75 (75)	319 (319)	1 (1)	— —
要	合計	141 (141)	115 (115)	3 (3)	76 (76)	335 (335)	1 (1)	— —

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		164 (164)	91 (91)	255 (255)					
	技 術 職 員		43 (43)	57 (57)	100 (100)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	7 (7)	9 (9)					
	そ の 他 の 職 員		3 (3)	28 (28)	31 (31)					
	計		212 (212)	183 (183)	395 (395)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
	校 舎 敷 地	215,651 m ²	0 m ²	0 m ²	215,651 m ²					
	運 動 場 用 地	125,768 m ²	0 m ²	0 m ²	125,768 m ²					
	小 計	341,419 m ²	0 m ²	0 m ²	341,419 m ²					
	そ の 他	8,575,430 m ²	0 m ²	0 m ²	8,575,430 m ²					
	合 計	8,916,849 m ²	0 m ²	0 m ²	8,916,849 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
		116,734 m ² (116,734 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	116,734 m ² (116,734 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	77 室	75 室	296 室	15 室 (補助職員 3人)	7 室 (補助職員 8人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		大学全体				
		データサイエンス経営学部 データサイエンス経営学科		16 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能なため、大学全体の数		
	データサイエンス経営学部	611,321 [135,614] (611,321 [135,614])	10,967 [3,310] (10,967 [3,310])	6,948 [6,948] (6,948 [6,948])	4,742 (4,742)	17,899 (17,899)	0 (0)			
	計	611,321 [135,614] (611,321 [135,614])	10,967 [3,310] (10,967 [3,310])	6,948 [6,948] (6,948 [6,948])	4,742 (4,742)	17,899 (17,899)	0 (0)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		7,866 m ²		587	639,725					
体 育 館		面積 3,366 m ²		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
				武道館 (870 m ²)		陸上競技場 1面				
				野球場 2面		サッカー・ラグビー場 1面				
				テニスコート 8面		プール (25m用)				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	国費による
		教員 1 人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図 書 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—	
		設 備 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—	
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			—							

大学の名称	宇都宮大学							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
地域デザイン科学部						1.07	平成28年度	栃木県宇都宮市陽東7-1-2
コミュニティデザイン学科	4	50	0	200	学士(コミュニティデザイン学)	1.07	平成28年度	
建築都市デザイン学科	4	50	3年次3	206	学士(工学)	1.06	平成28年度	
社会基盤デザイン学科	4	40	3年次3	166	学士(工学)	1.07	平成28年度	
国際学部						1.12	平成6年度	栃木県宇都宮市峰町350
国際学科	4	90	3年次10	380	学士(国際学)	1.12	平成29年度	
国際社会学科	4	—	—	—	学士(国際学)	—	平成6年度	
国際文化学科	4	—	—	—	学士(国際学)	—	平成6年度	
共同教育学部						1.03	令和2年度	栃木県宇都宮市峰町350
学校教育教員養成課程	4	170	0	680	学士(教育学)	1.03	令和2年度	
教育学部						—	昭和41年度	栃木県宇都宮市峰町350
学校教育教員養成課程	4	—	—	—	学士(教育学)	—	平成11年度	
工学部						1.00		栃木県宇都宮市陽東7-1-2
基盤工学科	4	315	3年次26	1312	学士(工学)	1.00	平成31年度	
機械システム工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和63年度	
電気電子工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和63年度	
応用化学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和63年度	
情報工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和63年度	
農学部						1.02		栃木県宇都宮市峰町350
生物資源科学科	4	63	3年次18	252	学士(農学)	0.98	平成25年度	
応用生命化学科	4	32		128	学士(農学)	1.04	平成25年度	
農業環境工学科	4	32		128	学士(農学)	0.97	平成33年度	
農業経済学科	4	36		144	学士(農学)	1.10	昭和24年度	
森林科学科	4	32		128	学士(農学)	1.01	平成33年度	
(学科共通)					36	学士(農学)		

※平成29年度より学生募集停止(国際社会学科、国際文化学科)

※令和2年度より学生募集開始

※令和2年度より学生募集停止

※平成31年度より学生募集停止(機械システム工学科、電気電子工学科、応用科学科、情報工学科)

既設 大学 等 の 状 況	地域創生科学研究科 (博士前期課程) 社会デザイン科学専攻	2	77	0	154	修士(学術) 修士(農学) 修士(工学) 修士(国際学)	1.20 平成31年度 1.38 平成31年度	栃木県宇都宮市峰町350 栃木県宇都宮市陽東7-1-2	
	工農総合科学専攻	2	258	0	516	修士(光工学) 修士(分子農学) 修士(工学) 修士(農学)	1.14 平成31年度		
	地域創生科学研究科 (博士後期課程) 先端融合科学専攻	3	25	0	75	博士(光工学) 博士(農学) 博士(工学) 博士(国際学) 博士(学術)	1.14 令和3年度 1.14 令和3年度	栃木県宇都宮市峰町350 栃木県宇都宮市陽東7-1-2	※令和3年度より学生募集開始
	国際学研究科 (博士前期課程) 国際社会研究専攻	2	—	—	—	修士(国際学)	— 平成11年度	栃木県宇都宮市峰町350	※平成31年度より学生募集停止
	国際文化研究専攻	2	—	—	—	修士(国際学)	— 平成11年度		
	国際交流研究専攻	2	—	—	—	修士(国際学)	— 平成11年度		
	国際学研究科 (博士後期課程) 国際学研究専攻	3	—	—	—	博士(国際学)	— 平成19年度	栃木県宇都宮市峰町350	※令和3年度より学生募集停止
	教育学研究科 (専門職学位課程) 教育実践高度化専攻	2	18	0	36	教職修士(専門職)	1.02 平成27年度	栃木県宇都宮市峰町350	

<p>工学研究科 (博士前期課程)</p> <p>機械知能工学専攻</p> <p>電気電子システム工学専攻</p> <p>物質環境化学専攻</p> <p>地球環境デザイン学専攻</p> <p>情報システム科学専攻</p> <p>先端光工学専攻</p>	<p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>修士 (工学)</p> <p>修士 (工学)</p> <p>修士 (工学)</p> <p>修士 (工学)</p> <p>修士 (工学)</p> <p>修士 (工学)</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>平成10年度</p> <p>平成10年度</p> <p>平成10年度</p> <p>平成10年度</p> <p>平成10年度</p> <p>平成27年度</p>	<p>栃木県宇都宮市陽東7-1-2</p>	<p>※平成31年度より学生募集停止</p>
<p>工学研究科 (博士後期課程)</p> <p>システム創成工学専攻</p>	<p>3</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>博士 (工学)</p>	<p>—</p>	<p>平成4年度</p>	<p>栃木県宇都宮市陽東7-1-2</p>	<p>※令和3年度より学生募集停止</p>
<p>(附属学校)</p> <p>名称：共同教育学部附属幼稚園 目的：幼児教育の実証的研究を進めるとともに、遊びや生活を通して幼児の心身の活動力を高めるよう努めている。 所在地：栃木県宇都宮市松原1-7-38 設置年月：昭和41年4月 規模等：土地 48,980㎡ (附属小学校及び附属中学校と共有)、建物 932㎡</p> <p>名称：共同教育学部附属小学校 目的：先導的・先進的な研究校としての役割と教員養成の使命の上に、子供たちに最良の教育を行うことを目的として、日々の教育研究及び実践を行っている。 所在地：栃木県宇都宮市松原1-7-38 設置年月：昭和41年4月 規模等：土地 48,980㎡ (附属幼稚園及び附属中学校と共有)、建物 5,904㎡</p> <p>名称：共同教育学部附属中学校 目的：生徒たちが自己の能力と個性を十分に伸ばし、充実した学校生活を送れるよう、教育方法を工夫し実践している。 所在地：栃木県宇都宮市松原1-7-38 設置年月：昭和41年4月 規模等：土地 48,980㎡ (附属幼稚園及び附属小学校と共有)、建物 5,550㎡</p> <p>名称：共同教育学部附属特別支援学校 目的：特別支援教育の実践研究を進めるとともに、宇都宮大学共同教育学部及び大学院教育学研究科の研究・研修に協力する。 所在地：栃木県宇都宮市宝木町1-2592 設置年月：昭和50年4月 規模等：土地 17,883㎡、建物 3,944㎡</p> <p>(学部附属施設)</p> <p>名称：地域デザイン科学部附属地域デザインセンター 目的：地域と連携した教育及び研究を支援し、地域の課題解決に貢献する。 所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2 設置年月：令和3年4月 規模等：建物 陽東11号館1,909㎡の一部 (47㎡)</p> <p>名称：国際学部附属多文化公共圏センター 目的：栃木県内外の自治体・国際交流協会・教育委員会・市民団体 (NGO/NPOを含む協賛団体) や海外の交流協定締結大学とネットワークを形成し、情報を交換し合い、グローバル化に関わる諸問題の実践的解決を目指す。 所在地：栃木県宇都宮市峰町350 設置年月：平成20年4月 規模等：建物 峰町5号館B棟1,903㎡の一部 (101㎡)</p> <p>名称：工学部附属ものづくり創成工学センター 目的：未来を担う技術者の創造性と独創性を育み、ものづくり感性を涵養することを目的とした授業の実践を中心とし、インターンシップ及び学生によるプロジェクト活動の推進、現役技術者による講義、高度技術者による技能実演など多面的な教育プログラムの研究開発を行う。</p>									

所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2
設置年月：平成14年4月
規模等：建物 208㎡

名称：農学部附属農場
目的：農業に関する実習教育を行うとともに、学術研究の発展に資する。
所在地：栃木県真岡市下籠谷443
設置年月：昭和24年5月
規模等：土地 1,016,165㎡、建物5,033㎡

名称：農学部附属演習林
目的：船生演習林と日光演習林があり、森林科学の基礎的・応用的な研究を行うとともに、実験実習を通じて森林科学の総合的体系の理解を深める。
所在地：（船生演習林）栃木県塩谷郡塩谷町船生7556
（日光演習林）日光：栃木県日光市中宮祠3168
太郎山：栃木県日光市大字日光戦場ヶ原2492-2
設置年月：昭和24年5月
規模等：（船生演習林）土地 5,313,094㎡、建物 1,617㎡
（日光演習林）日光：土地 78,251㎡、建物 129㎡
太郎山：土地 2,005,735㎡

（教育研究施設）

名称：雑草管理教育研究センター
目的：雑草管理に関する包括的な教育研究を分野横断的な連携及び学内外の雑草管理関係組織・機関との連携によって推進し、もって農業生産の振興及び地域の持続的な発展に資することを目的とする。
所在地：栃木県宇都宮市峰町350
設置年月：令和3年4月
規模等：建物 2,091㎡

名称：バイオサイエンス教育研究センター
目的：バイオサイエンス分野の教育研究を行うとともに、研究の応用と実用化を目指して新たな領域を開拓し、地域においてバイオサイエンス及びテクノロジーの啓発活動を行い、また、関連分野の教員の共同利用に供することを目的とする。
所在地：栃木県宇都宮市峰町350
設置年月：平成20年3月
規模等：建物 3,205㎡

名称：オプティクス教育研究センター
目的：光技術産業の強化及び発展に貢献するため、産業界と連携して、体系的教育の徹底と人材の育成を行い、かつ先端的な研究領域を創成することで、世界水準の教育研究拠点の形成を目指す。
所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2
設置年月：平成19年4月
規模等：建物 1,944㎡

名称：ロボティクス・工農技術研究所
目的：ロボット、センサ、ICT、IoT、農業機械、栽培技術、解析・評価等の先端技術を「包括的ロボット・工農技術」として統括し、課題に則したロボット技術開発とその戦略的活用方法の開発、これらの相乗効果による地域課題を解決する研究を行い、地域潜在力を活用した創発的イノベーション推進拠点である「場」の構築を目指すことを目的とする。
所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2
設置年月：令和3年4月
規模等：建物 1,387㎡

附属施設の概要

名称：機器分析センター

目的：保有する教育研究設備の維持・管理、分析に関する技術指導・相談や機器操作に関する講習等を行い、教育研究を支援することを目的とする。

所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2

設置年月：令和3年4月

規模等：建物 845㎡

名称：基盤教育センター

目的：現代社会に必要なリテラシー、幅広い教養と豊かな人間性、専門教育を学ぶ上で基礎となる素養を身に付けるための基盤教育について、全学的実施の企画・運営を中心的に担い、その充実に資する。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成23年4月

規模等：建物 峰町4号館A棟3, 485㎡の一部 (521㎡)

峰町4号館B棟2, 651㎡の一部 (517㎡)

名称：就職・キャリア支援センター

目的：学生の就職活動及びキャリア形成を支援することを目的とする。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：令和3年4月

規模等：建物 峰町4号館A棟3, 485㎡の一部 (368㎡)

名称：社会共創促進センター

目的：地域のシンクタンク機能及び知の拠点としての役割を果たすとともに、地域との共創による研究を通じ本学の研究活動をより活性化し、地域への貢献と社会の発展に寄与することを目的とする。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：令和3年4月

規模等：建物 峰町学務棟 1, 513㎡の一部 (116㎡)

名称：宇大アカデミー

目的：社会人の学びを推進する。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成30年4月

規模等：建物 峰町5号館C棟 3, 249㎡の一部 (446㎡)

名称：イノベーション支援センター

目的：産学官金連携を基盤に地域イノベーションの創出を支援・推進するとともに、研究成果の社会実装を促進することを目的とする。

所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2

設置年月：令和3年4月

規模等：建物 5, 028㎡

(学内共同施設)

名称：アドミッションセンター

目的：入学者選抜方法の改善及び入学者選抜の円滑な実施並びに入試広報の企画・実施に関し、連絡調整を行うことを目的とする。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成31年4月

規模等：建物 924㎡

名称：留学生・国際交流センター

目的：外国人留学生及び海外留学を希望する学生に対し、必要な教育及び指導・助言等を行うとともに、その充実及び国際交流の推進に寄与することを目的とする。

峰地区

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成14年4月

規模等：建物 峰町4号館A棟3, 485㎡の一部 (111㎡)、

峰町4号館B棟2, 651㎡の一部 (490㎡)

陽東地区

所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2

設置年月：平成14年4月

規模等：建物 陽東2号館3, 056㎡の一部 (59㎡)

名称：教職センター
目的：教職課程の改善、充実及び教員養成機能の強化並びに充実を図るとともに、学内外の教育関連機関等と連携・協働し、教員養成及び現職教員研修の質の向上を図ることを目的とする。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350
設置年月：平成26年4月
規模等：建物 峰町7号館740㎡の一部（85㎡）

名称：情報通信基盤センター
目的：情報通信基盤及び情報システムに関する企画立案、設計及び運用を行うことにより、本学の教育研究、情報サービス及び大学経営業務を支援するとともに、IT関連分野における教育研究及び研究開発を推進し、地域に貢献することを目的とする。

峰地区
所在地：栃木県宇都宮市峰町350
設置年月：平成18年7月
規模等：建物 453㎡
陽東地区
所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2
設置年月：平成18年7月
規模等：建物 404㎡

名称：保健管理センター
目的：保健管理に関する専門的業務を行い、学生及び職員の健康の保持増進をはかることを目的とする。

峰地区
所在地：栃木県宇都宮市峰町350
設置年月：昭和51年5月
規模等：建物 385㎡
陽東地区
所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2
設置年月：昭和51年5月
規模等：建物 学生プラザ1,432㎡の一部（200㎡）

（附属図書館）
名称：附属図書館
目的：学生・教職員が教育・研究目標を達成するために必要とする多様な利用サービス・情報資源を提供する。また、一般市民に対しても利用サービスを拡充し、地域社会に貢献する。

所在地：（本館）栃木県宇都宮市峰町350
（分館）栃木県宇都宮市陽東7-1-2
設置年月：（本館）昭和30年4月
（分館）昭和39年4月
規模等：建物（本館）7,206㎡
（分館）学生プラザ1,432㎡の一部（1,138㎡）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(データサイエンス経営学部データサイエンス経営学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
基盤 教育 科目	新入生セミナー	1前	2			○			9	6		1		※演習
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			9	6	0	1	0	兼0
リテ ラシー 科目	Integrated English I A	1前	2			○								兼7
	Integrated English I B	1前	1			○								兼10
	Integrated English II A	1後	2			○								兼7
	Integrated English II B	1後	1			○								兼10
	Advanced English I (EAP Reading I)	1・2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (EAP Reading II)	1・2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (EAP Reading & Vocabulary)	1・2前後		1			○							兼1
	Advanced English I (EAP Writing I)	1・2前後		1			○							兼3
	Advanced English I (EAP Writing II)	1・2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Public Speaking])	1・2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Presentation])	1・2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Discussion & Debate])	1・2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (EAP Listening & Speaking [World Englishes])	1・2前後		1			○							兼3
	Advanced English I (EAP Language for Communication)	1・2前後		1			○							兼3
	Advanced English I (EAP Media Literacy)	1・2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (EAP Communication & Culture)	1・2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (EAP Career Preparation)	1・2前後		1			○							兼5
	Advanced English I (EAP Integrated Skills [World Perspectives])	1・2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (EAP Integrated Skills [Arts & Sciences])	1・2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (EAP Integrated Skills [World Connections])	1・2前後		1			○							兼2
	Advanced English II (EAP Basic 4 Skills)	2前		1			○							兼1
	Advanced English II (Academic Skills Development: Listening & Speaking)	3・4前後		1			○							兼1
	Advanced English II (Academic Skills Development: Reading & Writing)	3・4前後		1			○							兼1
	Advanced English III (Academic Topics)	3・4前後		1			○							兼1
	Honors English I	1・2・3・4前		1			○							兼1
	Honors English II	1・2・3・4後		1			○							兼1
	Honors Seminar	1・2・3・4通		1			○							兼1 ※講義
Language Study Abroad A	1・2・3・4		2			○							兼1	
Language Study Abroad B	1・2・3・4		2			○							兼1	
Language Study Abroad C	1・2・3・4		1			○							兼1	
Language Study Abroad D	1・2・3・4		1			○							兼1	
スポーツと健康	1前		2			○							兼10	
データサイエンス入門	1前		2			○		1					※講義	
SDGs入門	1後		1			○							兼2 ※講義・オムニバース	
小計(34科目)	—	—	11	29	0	—			1	0	0	0	0	兼44
教養 科目	人間と文化への扉	1前後		2		○								兼17 ※演習
	社会と人間への扉	1前後		2		○								兼13 ※演習
	自然と環境への扉	1前後		2		○								兼31 ※演習
	ものづくり体験	1後		2			○							兼2 共同
	小計(4科目)	—	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	兼61

リベラル アーツ 科目	人文科学系科目	思想と論理の世界A	1・2前	2	○										兼1	
		思想と論理の世界B	1・2前	2	○										兼1	
		思想と論理の世界C	1・2前後	2	○										兼1	ｽﾃｲ
		人間発達の世界A	1・2前後	2	○										兼3	
		人間発達の世界B	1・2前後	2	○										兼3	
		人間発達の世界C	1・2前後	2	○										兼3	
		文学の世界A	1・2前	2	○										兼2	
		文学の世界B	1・2前	2	○										兼1	
		文学の世界C	1・2前	2	○										兼1	
		歴史の世界A	1・2前	2	○										兼1	
		歴史の世界B	1・2前	2	○										兼1	
		歴史の世界C	1・2後	2	○										兼1	ｽﾃｲ
		芸術の世界A	1・2前後	2	○										兼4	
		芸術の世界B	1・2前後	2	○										兼5	
		芸術の世界C	1・2前後	2	○										兼1	ｽﾃｲ
		異文化理解の世界A	1・2前	2	○										兼1	
		異文化理解の世界B	1・2前	2	○										兼1	
		異文化理解の世界C	1・2後	2	○										兼3	
		言語表現の世界A	1・2前後	2	○										兼3	
		言語表現の世界B	1・2前後	2	○										兼3	
		言語表現の世界C	1・2前	2	○										兼3	
		生涯学習概論	1・2前	2	○										兼1	
		人権と福祉	1・2後	2	○										兼1	集中
	小計 (23科目)	—	0	46	0	—		0	0	0	0	0	0	兼42		
社会科学系科目	親密圏と公共圏の世界A	1・2前後	2	○										兼2		
	親密圏と公共圏の世界B	1・2前後	2	○										兼3		
	親密圏と公共圏の世界C	1・2前後	2	○										兼1	ｽﾃｲ	
	親密圏と公共圏の世界D	1・2前後	2	○										兼1	ｽﾃｲ	
	グローバル化の世界A	1・2前	2	○										兼2		
	グローバル化の世界B	1・2前後	2	○										兼2		
	グローバル化の世界C	1・2前	2	○										兼1		
	経済生活の世界A	1・2前	2	○				1								
	経済生活の世界B	1・2後	2	○											兼1	
	経済生活の世界C	1・2前	2	○											兼1	ｽﾃｲ
	地域生活の世界A	1・2前後	2	○											兼2	
	地域生活の世界B	1・2前	2	○											兼1	
	地域生活の世界C	1・2前	2	○											兼1	
	日本国憲法	1・2前後	2	○											兼2	
	グローバル化と外国人児童生徒教育	1・2前後	2	○											兼6	オムニス
	現代政治の理論と実際	1・2前	2	○											兼1	
	遊びの理論とゲーム開発	1・2後	2	○											兼1	
著作権法入門	1・2前	2	○											兼1		
国際協力の実践と課題	1・2後	2	○			○								兼1		
知的財産権概論	1・2・3・4前	2	○											兼2	オムニス	
小計 (20科目)	—	0	40	0	—		1	0	0	0	0	0	0	兼30		
自然科学系科目	自然科学の世界A	1・2前	2	○											兼2	
	自然科学の世界B	1・2前	2	○											兼2	
	自然科学の世界C	1・2前後	2	○											兼2	
	科学技術の世界A	1・2前後	2	○											兼2	
	科学技術の世界B	1・2後	2	○											兼2	
	科学技術の世界C	1・2前後	2	○											兼2	
	人間生活と生物の世界A	1・2前	2	○											兼1	
	人間生活と生物の世界B	1・2後	2	○											兼2	
	人間生活と生物の世界C	1・2後	2	○											兼1	
	人間社会と情報の世界A	1・2前後	2	○											兼2	
	人間社会と情報の世界B	1・2後	2	○											兼2	
	人間社会と情報の世界C	1・2後	2	○							1				兼1	ｽﾃｲ・共同
	人間生活と健康の世界A	1・2後	2	○											兼1	
	人間生活と健康の世界B	1・2後	2	○											兼1	ｽﾃｲ
	人間社会と科学の世界A	1・2前	2	○											兼1	
	人間社会と科学の世界B	1・2前	2	○											兼2	
	人間社会と科学の世界C	1・2前後	2	○				1								ｽﾃｲ
	ICTを活用した教育の理論と実践	1・2前	1	○											兼1	※演習
	バイオメテックス入門	1・2後	2	○											兼1	
物質・材料の機器分析入門	1・2前	2	○											兼1		
食と生命のフィールド実践演習	1・2通	4	○			○								兼5	オムニス	
データサイエンス基礎	1・2後	2	○							1				兼1	※演習・共同	
データサイエンスのための数学	1・2前	2	○											兼1		
小計 (23科目)	—	0	47	0	—		1	0	0	1	0	0	0	兼32		

専門教育科目	初修外国語系科目	フランス語基礎Ⅰ	1・2前	1			○									兼1		
		フランス語基礎Ⅱ	1・2後	1			○										兼1	
		スペイン語基礎Ⅰ	1・2前	1			○										兼1	
		スペイン語基礎Ⅱ	1・2後	1			○										兼1	
		中国語基礎Ⅰ	1・2前	1			○										兼1	
		中国語基礎Ⅱ	1・2後	1			○										兼1	
		韓国朝鮮語基礎Ⅰ	1・2前	1			○										兼1	
		韓国朝鮮語基礎Ⅱ	1・2後	1			○										兼2	
	小計(8科目)	—	0	8	0			—		0	0	0	0	0	0	0	兼5	
	総合系科目	Iより始めよ	1・2後		2			○									兼1	※講義
		小計(1科目)	—	0	2	0			—	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
	基盤キャリア教育系	基盤キャリア教育A	1・2・3・4前		2		○										兼1	
		基盤キャリア教育B	1・2・3・4		2		○										兼1	
		基盤キャリア教育C	1・2・3・4		2		○										兼1	
		基盤キャリア実習A	1・2・3・4		1				○								兼1	
基盤キャリア実習B		1・2・3・4		2				○								兼1		
小計(5科目)	—	0	9	0			—	0	0	0	0	0	0	0	兼2			
高度教養科目	高度教養セミナー	3後	1				○		9	6			1				※講義	
	小計(1科目)	—	1	0	0			—	9	6	0	1	0			兼0		
専門教育科目	数理・データサイエンス科目	プログラミング演習1	1前	2			○			1							※講義	
		AI・機械学習入門	1後	2			○		1								兼1	
		確率・統計1	1後	2			○						1				※演習	
		確率・統計2	2前	2			○										※演習	
		小計(4科目)	—	8	0	0			—	1	1	0	1	0			兼1	
	学系必修科目	データサイエンスの数理A	2前		2		○			1	1							※演習
		データサイエンスの数理B	2前		2		○		1									※演習
		プログラミング演習2	2後		2			○	1									※演習
		AI・機械学習論1	2後		2		○				1							兼1
		数理統計学	2後		2		○		1									※演習
		データエンジニアリング	3前		2		○		1									※演習
		AI・機械学習論2	3前		2		○											兼1
	小計(7科目)	—	0	14	0			—	3	2	0	0	0			兼1		
	選択科目	AI活用実践演習	2前		2			○		1							兼1	集中
多変量解析		2後		2		○		1									兼1	
データベースシステム		3前		2		○											兼1	
時系列解析		3前		2		○		1									※演習	
数値解析		3後		2		○				1							※演習	
システム解析入門		3後		2		○						1					※演習	
確率過程論		3後		2		○							1				兼2	
小計(7科目)		—	0	14	0			—	1	2	0	1	0			兼2		
経営学科目	必修科目	経営学概論	1後	2			○			1								
		ミクロ経済学	1後	2			○			1								
		経営管理論	2前	2			○		1									
		会計学概論	2前	2			○		1									
	小計(4科目)	—	8	0	0			—	2	2	0	0	0			兼0		
	学系必修科目	金融論概論	2前		2		○			1								
		経営戦略論	2前		2		○		1									兼1
		コーポレート・ガバナンス論	2後		2		○											兼1
		財務会計論	2後		2		○		1									
		経営組織論	2後		2		○				1							
		人的資源管理論	3前		2		○					1						
		中小企業論	3前		2		○		1									
	小計(7科目)	—	0	14	0			—	3	2	0	0	0			兼1		
	選択科目	マクロ経済学	2前		2		○			1								
企業法		2後		2		○											兼1	
管理会計論		3前		2		○		1										
NPO論		3前		2		○											兼1	
意思決定論		3後		2		○											兼1	
企業論		3後		2		○											兼1	
組織行動論		3後		2		○											兼1	
小計(7科目)	—	0	14	0			—	1	1	0	0	0			兼5			

総合・社会実装科目	必修科目	データサイエンス・経営学の数理及び演習A	1通	3										兼1	※演習
		データサイエンス・経営学の数理及び演習B	1通	3										兼1	※演習
		社会実装基礎演習1	2前	2					9	6		1			共同
		マーケティング論	2前	2					1						
		社会実装基礎演習2	2後	2					9	6		1			共同
		マーケティングリサーチ	2後	2					1						
		経営情報論	2後	2								1			
		社会実装応用演習1	3前	2					9	6			1		オムニバス・共同(一部)
		ビジネス・データサイエンス	3前	2								1			※演習
		社会実装応用演習2	3後	2					9	6			1		
		社会実装実践演習	3後	3					9	6			1		
		データサイエンス・経営学特別演習	3後	3					9	6			1		
		卒業研究	4通	6					9	6			1		
		発表技術	4通	2					9	6			1		
	小計(14科目)	—	36	0	0	—	—	9	6	0	1	0	兼2		
選択科目		ゲーム理論入門	1前	2										兼1	
		経済・経営数学	2前	2						1					※演習
		オペレーションズ・リサーチ	2後	2							1				
		社会統計学	2後	2										兼1	
		数理モデル	3前	2					1						※演習
		インターンシップ	3前	2							1				
		計量経済学	3前	2										兼1	※演習
		経営分析	3前	2										兼1	
		知的財産権	3前	2										兼1	
		アントレプレナーシップ論	3後	2										兼1	
		イノベーション・マネジメント	3後	2										兼1	集中
	小計(11科目)	—	0	22	0	—	—	2	1	0	0	0	兼7		
他学部等の科目	グローバル関連科目	International Political Economics	1・2・3・4前	2										兼1	集中
		Global Management: Asia and Development	1・2・3・4前	2										兼4	共同・集中
		Risk Management	1・2・3・4通	2										兼1	集中
		International Humanitarian Law in Theory and Practice	1・2・3・4後	2										兼1	集中
		International Career Seminar	1・2・3・4前	2										兼2	共同・イテ・集中
		国際キャリア教育	1・2・3・4前	2										兼1	イテ・集中
		海外英語研修	1・2・3・4後	2										兼1	集中
	小計(7科目)	—	0	14	0	—	—	0	0	0	0	0	兼11		
データサイエンス応用科目		GIS入門	2・3・4後	1										兼1	
		GIS演習(コミュニティ)	2・3・4後	1										兼1	
		GIS演習(建築・都市)	2・3・4後	1										兼1	
		GIS演習(社会基盤)	2・3・4後	1										兼1	
		社会調査法入門	2・3・4前	2										兼1	
		アジア太平洋文化社会研究E(中東地域研究演習)	2・3・4前	2										兼1	
		人工知能とコンピュータビジョン	2・3・4後	2										兼1	
		データ構造とアルゴリズム	2・3・4後	2										兼1	
		応用画像工学	2・3・4後	2										兼3	オムニバス
		化工シミュレーション	2・3・4後	2										兼1	
		機械数理II	2・3・4前	2										兼1	
		シミュレーションサイエンス	2・3・4前	2										兼8	オムニバス
		森林空間情報工学	2・3・4前	2										兼1	
	小計(13科目)	—	0	22	0	—	—	0	0	0	0	0	兼19		
合計(201科目)			—	66	303	0	—	—	9	6	0	1	0	兼209	
学位又は称号		学士(経営情報学)			学位又は学科の分野				経済学関係、工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
1. 基盤教育科目 28単位以上								1 学年の学期区分				2期			
[必修科目(選択必修科目含む)24単位、選択科目4単位以上を履修]								1 学期の授業期間				15週			
必修科目(選択必修科目含む)24単位の履修方法								1 時限の授業時間				90分			
(1) 初期導入科目 2単位															
「新入生セミナー」を必修。															
(2) リテラシー科目 13単位															
「Integrated English IA」、「Integrated English IB」、															
「Integrated English IIA」、「Integrated English IIB」、															
「Advanced English I(異なる分野から2科目)」、															
「スポーツと健康」、「データサイエンス入門」、「SDGs入門」を必修。															
(3) 基盤教養科目 2単位															
「人間と文化への扉」、「社会と人間への扉」、「自然と環境への扉」、「ものづくり体験」から1科目2単位を選択必修。															
(4) リベラルアーツ科目 6単位															
人文科学系科目から2単位、社会科学系科目から2単位、自然科学系科目から2単位を選択必修。															
(5) 高度教養科目 1単位															

「高度教養セミナー」を必修。

選択科目4単位以上の履修方法

必修科目以外のリテラシー科目及び選択必修科目として履修した科目以外のリベラルアーツ科目から4単位以上を選択。

2. 専門教育科目 96単位以上

[必修科目52単位、学系必修科目14単位、選択科目30単位以上を履修]

必修科目52単位の履修方法

数理・データサイエンス科目、経営学科目、総合・社会実装科目の必修科目52単位を必修。

学系必修科目14単位の履修方法

(1) データサイエンス学系を選択した学生

「プログラミング演習2」、「データサイエンスの数理A」、「データサイエンスの数理B」、「AI・機械学習論1」、「数理統計学」、「データエンジニアリング」、「AI・機械学習論2」の7科目14単位を必修。

(2) 経営学系を選択した学生

「金融論概論」、「コーポレート・ガバナンス論」、「財務会計論」、「経営戦略論」、「経営組織論」、「人的資源管理論」、「中小企業論」の7科目14単位を必修。

選択科目30単位以上の履修方法

必修科目及び学系必修科目として履修した科目以外の専門教育科目から30単位以上を選択。

ただし、他学部等の科目からは8単位を上限とする。

また、「GIS演習（コミュニティ）」、「GIS演習（建築・都市）」、「GIS演習（社会基盤）」については、いずれか1科目のみ履修可とする。

(履修科目の登録の上限)

1年次は各学期30単位（年間60単位）、2～4年次は各学期24単位（年間48単位）を履修登録単位数の上限とする。

ただし、当該学期の直前の学期の成績評価でGPTが75以上かつGPAが3.75以上の成績を修めた場合は、2～4年次においても各学期30単位を履修登録単位数の上限とする。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(データサイエンス経営学部データサイエンス経営学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
基盤 教育 科目	初 期 導 入 科 目	新入生セミナー	1前	2			○			9	6		1		※演習
		小計(1科目)	—	2	0	0	—			9	6	0	1	0	兼0
リテ ラ シー 科 目		Integrated English I A	1前	2			○								兼7
		Integrated English I B	1前	1			○								兼10
		Integrated English II A	1後	2			○								兼7
		Integrated English II B	1後	1			○								兼10
		Advanced English I (EAP Reading I)	1・2前後		1		○								兼4
		Advanced English I (EAP Reading II)	1・2前後		1		○								兼2
		Advanced English I (EAP Reading & Vocabulary)	1・2前後		1		○								兼1
		Advanced English I (EAP Writing I)	1・2前後		1		○								兼3
		Advanced English I (EAP Writing II)	1・2前後		1		○								兼2
		Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Public Speaking])	1・2前後		1		○								兼2
		Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Presentation])	1・2前後		1		○								兼2
		Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Discussion & Debate])	1・2前後		1		○								兼2
		Advanced English I (EAP Listening & Speaking [World Englishes])	1・2前後		1		○								兼3
		Advanced English I (EAP Language for Communication)	1・2前後		1		○								兼3
		Advanced English I (EAP Media Literacy)	1・2前後		1		○								兼2
		Advanced English I (EAP Communication & Culture)	1・2前後		1		○								兼2
		Advanced English I (EAP Career Preparation)	1・2前後		1		○								兼5
		Advanced English I (EAP Integrated Skills [World Perspectives])	1・2前後		1		○								兼2
		Advanced English I (EAP Integrated Skills [Arts & Sciences])	1・2前後		1		○								兼2
		Advanced English I (EAP Integrated Skills [World Connections])	1・2前後		1		○								兼2
		Advanced English I (EAP Basic 4 Skills)	2前		1		○								兼1
		Advanced English II (Academic Skills Development: Listening & Speaking)	3・4前後		1		○								兼1
		Advanced English II (Academic Skills Development: Reading & Writing)	3・4前後		1		○								兼1
		Advanced English III (Academic Topics)	3・4前後		1		○								兼1
		Honors English I	1・2・3・4前		1		○								兼1
		Honors English II	1・2・3・4後		1		○								兼1
		Honors Seminar	1・2・3・4通		1		○								兼1 ※講義
	Language Study Abroad A	1・2・3・4		2		○								兼1	
	Language Study Abroad B	1・2・3・4		2		○								兼1	
	Language Study Abroad C	1・2・3・4		1		○								兼1	
	Language Study Abroad D	1・2・3・4		1		○								兼1	
	スポーツと健康	1前	2			○								兼10	
	データサイエンス入門	1前	2			○			1					※講義	
	SDGs入門	1後	1			○								兼2 ※講義・オムニパス	
	小計(34科目)	—	11	29	0	—			1	0	0	0	0	兼44	
教 養 科 目	基 盤 教 養 科 目	人間と文化への扉	1前後		2		○								兼17 ※演習
		社会と人間への扉	1前後		2		○								兼13 ※演習
		自然と環境への扉	1前後		2		○								兼31 ※演習
		小計(3科目)	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼59

リベラル アーツ 科目	人文科学系科目	思想と論理の世界A	1・2前	2	○														兼1	
		思想と論理の世界B	1・2前	2	○														兼1	
		思想と論理の世界C	1・2前後	2	○														兼1	※イ
		人間発達の世界A	1・2前後	2	○														兼3	
		人間発達の世界B	1・2前後	2	○														兼3	
		人間発達の世界C	1・2前後	2	○														兼3	
		文学の世界A	1・2前	2	○														兼2	
		文学の世界B	1・2前	2	○														兼1	
		文学の世界C	1・2前	2	○														兼1	
		歴史の世界A	1・2前	2	○														兼1	
		歴史の世界B	1・2前	2	○														兼1	
		歴史の世界C	1・2後	2	○														兼1	※イ
		芸術の世界A	1・2前後	2	○														兼4	
		芸術の世界B	1・2前後	2	○														兼5	
		芸術の世界C	1・2前後	2	○														兼1	※イ
		異文化理解の世界A	1・2前	2	○														兼1	
		異文化理解の世界B	1・2前	2	○														兼1	
		異文化理解の世界C	1・2後	2	○														兼3	
		言語表現の世界A	1・2前後	2	○														兼3	
		言語表現の世界B	1・2前後	2	○														兼3	
		言語表現の世界C	1・2前	2	○														兼3	
		生涯学習概論	1・2前	2	○														兼1	
		人権と福祉	1・2後	2	○														兼1	集中
	小計 (23科目)	—	0	46	0	—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼42		
社会 科学 系 科目	親密圏と公共圏の世界A	1・2前後	2	○															兼2	
	親密圏と公共圏の世界B	1・2前後	2	○															兼3	
	親密圏と公共圏の世界C	1・2前後	2	○														兼1	※イ	
	親密圏と公共圏の世界D	1・2前後	2	○															兼1	※イ
	グローバル化の世界A	1・2前	2	○															兼2	
	グローバル化の世界B	1・2前後	2	○															兼2	
	グローバル化の世界C	1・2前	2	○															兼1	
	経済生活の世界A	1・2前	2	○				1												
	経済生活の世界B	1・2後	2	○															兼1	
	経済生活の世界C	1・2前	2	○															兼1	※イ
	地域生活の世界A	1・2前後	2	○															兼2	
	地域生活の世界B	1・2前	2	○															兼1	
	地域生活の世界C	1・2前	2	○															兼1	
	日本国憲法	1・2前後	2	○															兼2	
	グローバル化と外国人児童生徒教育	1・2前後	2	○															兼6	オニハス
	現代政治の理論と実際	1・2前	2	○															兼1	
	遊びの理論とゲーム開発	1・2後	2	○															兼1	
著作権法入門	1・2前	2	○															兼1		
国際協力の実践と課題	1・2後	2	○															兼1		
小計 (19科目)	—	0	38	0	—		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼28		
自然 科学 系 科目	自然科学の世界A	1・2前	2	○															兼2	
	自然科学の世界B	1・2前	2	○															兼2	
	自然科学の世界C	1・2前後	2	○															兼2	
	科学技術の世界A	1・2前後	2	○															兼2	
	科学技術の世界B	1・2後	2	○															兼2	
	科学技術の世界C	1・2前後	2	○															兼2	
	人間生活と生物の世界A	1・2前	2	○															兼1	
	人間生活と生物の世界B	1・2後	2	○															兼2	
	人間生活と生物の世界C	1・2後	2	○															兼1	
	人間社会と情報の世界A	1・2前後	2	○															兼2	
	人間社会と情報の世界B	1・2後	2	○															兼2	
	人間社会と情報の世界C	1・2後	2	○									1						兼1	※イ・共同
	人間生活と健康の世界A	1・2後	2	○															兼1	
	人間生活と健康の世界B	1・2後	2	○															兼1	※イ
	人間社会と科学の世界A	1・2前	2	○															兼1	
	人間社会と科学の世界B	1・2前	2	○															兼2	
	人間社会と科学の世界C	1・2前後	2	○				1											兼1	※イ
	ICTを活用した教育の理論と実践	1・2前	1	○															兼1	※演習
	バイオメテックス入門	1・2後	2	○															兼1	
	物質・材料の機器分析入門	1・2前	2	○															兼1	
食と生命のフィールド実践演習	1・2通	4	○															兼5	オニハス	
データサイエンス基礎	1・2後	2	○									1						兼1	※演習・共同	
データサイエンスのための数学	1・2前	2	○															兼1		
小計 (23科目)	—	0	47	0	—		1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	兼32		

専門教育科目	初修外国語系科目	フランス語基礎Ⅰ	1・2前	1			○											兼1		
		フランス語基礎Ⅱ	1・2後	1			○												兼1	
		スペイン語基礎Ⅰ	1・2前	1			○												兼1	
		スペイン語基礎Ⅱ	1・2後	1			○												兼1	
		中国語基礎Ⅰ	1・2前	1			○												兼1	
		中国語基礎Ⅱ	1・2後	1			○												兼1	
		韓国朝鮮語基礎Ⅰ	1・2前	1			○												兼1	
		韓国朝鮮語基礎Ⅱ	1・2後	1			○												兼2	
	小計(8科目)	—	0	8	0			—			0	0	0	0	0	0	0	0	兼5	
	総合系科目	Iより始めよ	1・2後		2			○											兼1	※講義
		小計(1科目)	—	0	2	0			—		0	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
	基盤キャリア教育系	基盤キャリア教育A	1・2・3・4前		2			○											兼1	
		基盤キャリア教育B	1・2・3・4		2			○											兼1	
		基盤キャリア教育C	1・2・3・4		2			○											兼1	
		基盤キャリア実習A	1・2・3・4		1					○									兼1	
		基盤キャリア実習B	1・2・3・4		2					○									兼1	
	小計(5科目)	—	0	9	0			—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2	
	高度教養科目	高度教養セミナー	3後	1				○			9	6			1					※講義
		小計(1科目)	—	1	0	0			—		9	6	0	1	0				兼0	
	数理・データサイエンス科目	必修科目	プログラミング演習1	1前	2			○				1								※講義
AI・機械学習入門			1後	2			○			1									兼1	※演習
確率・統計1			1後	2			○							1					※演習	
確率・統計2			2前	2			○												兼1	※演習
小計(4科目)		—	8	0	0			—		1	1	0	1	0				兼1		
学系必修科目		データサイエンスの数理A	2前		2			○			1	1								※演習
		データサイエンスの数理B	2前		2			○		1										※演習
		プログラミング演習2	2後		2			○		1										※演習
		AI・機械学習論1	2後		2			○				1								※演習
		数理統計学	2後		2			○		1										※演習
		データエンジニアリング	3前		2			○		1										※演習
		AI・機械学習論2	3前		2			○											兼1	※演習
小計(7科目)		—	0	14	0			—		3	2	0	0	0				兼1		
選択科目		AI活用実践演習	2前		2			○			1									兼1
	多変量解析	2後		2			○		1											※演習
	時系列解析	3前		2			○		1											※演習
	数値解析	3後		2			○				1									※演習
	システム解析入門	3後		2			○				1									※演習
	確率過程論	3後		2			○						1							※演習
	小計(6科目)	—	0	12	0			—		1	2	0	1	0				兼1		
経営学科目	必修科目	経営学概論	1後	2			○				1									
		ミクロ経済学	1後	2			○				1									
		経営管理論	2前	2			○			1										
		会計学概論	2前	2			○			1										
	小計(4科目)	—	8	0	0			—		2	2	0	0	0				兼0		
学系必修科目	金融論概論	2前		2			○			1										
	経営戦略論	2前		2			○		1											
	コーポレート・ガバナンス論	2後		2			○												兼1	
	財務会計論	2後		2			○		1											
	経営組織論	2後		2			○				1									
	人的資源管理論	3前		2			○				1									
	中小企業論	3前		2			○		1											
小計(7科目)	—	0	14	0			—		3	2	0	0	0				兼1			
選択科目	マクロ経済学	2前		2			○				1									
	企業法	2後		2			○												兼1	
	管理会計論	3前		2			○		1											
	意思決定論	3後		2			○												兼1	
	企業論	3後		2			○												兼1	
	組織行動論	3後		2			○												兼1	
	小計(6科目)	—	0	12	0			—		1	1	0	0	0				兼4		

総合・社会実装科目	必修科目	データサイエンス・経営学の数理及び演習A	1通	3			○							兼1	※演習
		データサイエンス・経営学の数理及び演習B	1通	3			○							兼1	※演習
		社会実装基礎演習1	2前	2				○		9	6		1		共同
		マーケティング論	2前	2			○			1					
		社会実装基礎演習2	2後	2				○		9	6		1		共同
		マーケティングリサーチ	2後	2			○			1					
		経営情報論	2後	2			○				1				
		社会実装応用演習1	3前	2				○		9	6		1		ビジネス・共同(一部)
		ビジネス・データサイエンス	3前	2			○				1				※演習
		社会実装応用演習2	3後	2				○		9	6		1		
		社会実装実践演習	3後	3				○		9	6		1		
		データサイエンス・経営学特別演習	3後	3				○		9	6		1		
		卒業研究	4通	6				○		9	6		1		
		発表技術	4通	2				○		9	6		1		
	小計(14科目)	—	36	0	0		—		9	6	0	1	0	兼2	
選択科目		ゲーム理論入門	1前	2			○							兼1	
		経済・経営数学	2前	2			○			1					※演習
		オペレーションズ・リサーチ	2後	2			○				1				
		数理モデル	3前	2			○		1						※演習
		インターンシップ	3前	2				○	1						
		計量経済学	3前	2			○							兼1	※演習
		経営分析	3前	2			○							兼1	
		知的財産権	3前	2			○							兼1	
		アントレプレナーシップ論	3後	2			○							兼1	
		イノベーション・マネジメント	3後	2			○							兼1	集中
	小計(10科目)	—	0	20	0		—		2	1	0	0	0	兼6	
他学部等の科目		International Political Economics	1・2・3・4前	2			○							兼1	集中
		Global Management: Asia and Development	1・2・3・4前	2			○							兼4	共同・集中
		Risk Management	1・2・3・4通	2			○							兼1	集中
		International Humanitarian Law in Theory and Practice	1・2・3・4後	2			○							兼1	集中
		International Career Seminar	1・2・3・4前	2			○							兼2	共同・IT・集中
		国際キャリア教育	1・2・3・4前	2			○							兼1	IT・集中
		海外英語研修	1・2・3・4後	2				○						兼1	集中
		小計(7科目)	—	0	14	0		—		0	0	0	0	0	兼11
データサイエンス応用科目		社会調査法入門	2・3・4前	2			○							兼1	
		アジア太平洋文化社会研究E(中東地域研究演習)	2・3・4前	2				○						兼1	
		森林空間情報工学	2・3・4前	2			○							兼1	
		小計(3科目)		0	6	0		—		0	0	0	0	0	兼19
合計(186科目)			—	66	277	0	—		9	6	0	1	0	兼188	
学位又は称号		学士(経営情報学)			学位又は学科の分野				経済学関係、工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
1. 基盤教育科目 28単位以上								1学年の学期区分				2期			
[必修科目(選択必修科目含む)24単位、選択科目4単位以上を履修]								1学期の授業期間				15週			
必修科目(選択必修科目含む)24単位の履修方法								1時限の授業時間				90分			
(1) 初階導入科目 2単位 「新入生セミナー」を必修。															
(2) リテラシー科目 13単位 「Integrated English IA」、「Integrated English IB」、 「Integrated English IIA」、「Integrated English IIB」、 「Advanced English I(異なる分野から2科目)」、 「スポーツと健康」、「データサイエンス入門」、「SDGs入門」を必修。															
(3) 基盤教養科目 2単位 「人間と文化への扉」、「社会と人間への扉」、「自然と環境への扉」、「ものづくり体験」から1科目2単位を選択必修。															
(4) リベラルアーツ科目 6単位 人文科学系科目から2単位、社会科学系科目から2単位、自然科学系科目から2単位を選択必修。															
(5) 高度教養科目 1単位 「高度教養セミナー」を必修。															
選択科目4単位以上の履修方法 必修科目以外のリテラシー科目及び選択必修科目として履修した科目以外のリベラルアーツ科目から4単位以上を選択。															
2. 専門教育科目 96単位以上															

[必修科目52単位、学系必修科目14単位、選択科目30単位以上を履修]

必修科目52単位の履修方法

数理・データサイエンス科目、経営学科目、総合・社会実装科目の必修科目52単位を必修。

学系必修科目14単位の履修方法

(1) データサイエンス学系を選択した学生

「プログラミング演習2」、「データサイエンスの数理A」、「データサイエンスの数理B」、「AI・機械学習論1」、「数理統計学」、「データエンジニアリング」、「AI・機械学習論2」の7科目14単位を必修。

(2) 経営学系を選択した学生

「金融論概論」、「コーポレート・ガバナンス論」、「財務会計論」、「経営戦略論」、「経営組織論」、「人的資源管理論」、「中小企業論」の7科目14単位を必修。

選択科目30単位以上の履修方法

必修科目及び学系必修科目として履修した科目以外の専門教育科目から30単位以上を選択。

ただし、他学部等の科目からは8単位を上限とする。

また、「GIS演習（コミュニティ）」、「GIS演習（建築・都市）」、「GIS演習（社会基盤）」については、いずれか1科目のみ履修可とする。

(履修科目の登録の上限)

1年次は各学期30単位（年間60単位）、2～4年次は各学期24単位（年間48単位）を履修登録単位数の上限とする。

ただし、当該学期の直前の学期の成績評価でGPTが75以上かつGPAが3.75以上の成績を修めた場合は、2～4年次においても各学期30単位を履修登録単位数の上限とする。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(データサイエンス経営学部データサイエンス経営学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤教育科目	基盤教育科目	ものづくり体験	1後		2				○						兼2 共同
	小計 (1科目)		—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼2
	リベラルアーツ科目	社会的財産権概論	1・2・3・4前		2				○						兼2 オムニバス
小計 (1科目)		—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼2	
専門教育科目	選択科目	データベースシステム	3前		2				○						兼1
	小計 (1科目)		—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼1
	経営学科科目	NPO論	3前		2				○						兼1
小計 (1科目)		—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼1	
総合・社会実装科目	選択科目	社会統計学	2後		2				○						兼1
	小計 (1科目)		—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼1
他学部等の科目	データサイエンス応用科目	GIS入門	2・3・4後		1				○						兼1
	GIS演習 (コミュニティ)	2・3・4後		1					○					兼1	
	GIS演習 (建築・都市)	2・3・4後		1					○					兼1	
	GIS演習 (社会基盤)	2・3・4後		1					○					兼1	
	人工知能とコンピュータビジョン	2・3・4後		2					○					兼1	
	データ構造とアルゴリズム	2・3・4後		2					○					兼1	
	応用画像工学	2・3・4後		2					○					兼3 オムニバス	
	化工シミュレーション	2・3・4後		2					○					兼1	
	機械数理II	2・3・4前		2					○					兼1	
	シミュレーションサイエンス	2・3・4前		2					○					兼8 オムニバス	
小計 (10科目)			0	16	0		—		0	0	0	0	0	兼16	
合計 (15科目)			—	0	26	0		—		0	0	0	0	0	兼23
学位又は称号		学士 (経営情報学)			学位又は学科の分野			経済学関係、工学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
1. 基盤教育科目 28単位以上 [必修科目 (選択必修科目含む) 24単位、選択科目4単位以上を履修] 必修科目 (選択必修科目含む) 24単位の履修方法 (1) 初期導入科目 2単位 「新生セミナー」を必修。 (2) リテラシー科目 13単位 「Integrated English IA」、「Integrated English IB」、 「Integrated English IIA」、「Integrated English IIB」、								1学年の学期区分		2期					
								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		90分					

「Advanced English I（異なる分野から2科目）」、
「スポーツと健康」、「データサイエンス入門」、「SDGs入門」を必修。

(3) 基盤教養科目 2単位

「人間と文化への扉」、「社会と人間への扉」、「自然と環境への扉」、「ものづくり体験」から1科目2単位を選択必修。

(4) リベラルアーツ科目 6単位

人文科学系科目から2単位、社会科学系科目から2単位、自然科学系科目から2単位を選択必修。

(5) 高度教養科目 1単位

「高度教養セミナー」を必修。

選択科目4単位以上の履修方法

必修科目以外のリテラシー科目及び選択必修科目として履修した科目以外のリベラルアーツ科目から4単位以上を選択。

2. 専門教育科目 96単位以上

[必修科目52単位、学系必修科目14単位、選択科目30単位以上を履修]

必修科目52単位の履修方法

数理・データサイエンス科目、経営学科目、総合・社会実装科目の必修科目52単位を必修。

学系必修科目14単位の履修方法

(1) データサイエンス学系を選択した学生

「プログラミング演習2」、「データサイエンスの数理A」、「データサイエンスの数理B」、「AI・機械学習論1」、
「数理統計学」、「データエンジニアリング」、「AI・機械学習論2」の7科目14単位を必修。

(2) 経営学系を選択した学生

「金融論概論」、「コーポレート・ガバナンス論」、「財務会計論」、「経営戦略論」、「経営組織論」、
「人的資源管理論」、「中小企業論」の7科目14単位を必修。

選択科目30単位以上の履修方法

必修科目及び学系必修科目として履修した科目以外の専門教育科目から30単位以上を選択。

ただし、他学部等の科目からは8単位を上限とする。

また、「GIS演習（コミュニティ）」、「GIS演習（建築・都市）」、「GIS演習（社会基盤）」については、いずれか1科目のみ履修可とする。

(履修科目の登録の上限)

1年次は各学期30単位（年間60単位）、2～4年次は各学期24単位（年間48単位）を履修登録単位数の上限とする。

ただし、当該学期の直前の学期の成績評価でGPTが75が以上かつGPAが3.75以上の成績を修めた場合は、2～4年次においても各学期30単位を履修登録単位数の上限とする。

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス経営学部データサイエンス経営学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	初 期 導 入 科 目	<p>「新入生セミナー」は、大学の教育環境への適応、学生の自己認識をもとにした自律的態度の育成、および基礎的な学修スキルの修得を目指す。全員参加方式による講義に加え、個別のクラスに分かれて大学での学びに必要な基礎的な学習スキル(学修力、情報活用力、論理的思考力、表現力、協働力、課題解決力)を身につける。また、個別クラスにおいて提示される課題を達成するために、教科書、参考書等を参照しながら各々の学生が毎回予習・復習を行う。</p> <p>(共同、オムニバス方式/全15回) (1 長谷川光司・2 磯谷玲・① 白山真一・4 大嶋淳俊・5 田村傑・6 河本満・7 畑中信一・8 佐藤美恵・9 杉田直樹・10 加藤弘二・11 坂巻英一・12 森田佐知子・13 川面洋平・14 土屋翔・15 吉田聡太・② 熊本真一郎/6回) (共同) プレゼンテーションの技法(各種ソフトウェア)、課題解決力・コミュニケーション能力の育成(資料作成、中間発表、ピアレビューと改善、最終発表)、能動的・自律的な学修にむけて</p> <p>(1 長谷川光司・7 畑中信一・11 坂巻英一・② 熊本真一郎/1回) (共同) 各分野の紹介(データサイエンスの1)</p> <p>(6 河本満・8 佐藤美恵・13 川面洋平・15 吉田聡太/1回) (共同) 各分野の紹介(データサイエンスの2)</p> <p>(2 磯谷玲・4 大嶋淳俊・10 加藤弘二・12 森田佐知子/1回) (共同) 各分野の紹介(経営学の1)</p> <p>(① 白山真一・5 田村傑・9 杉田直樹・14 土屋翔/1回) (共同) 各分野の紹介(経営学の2)</p> <p>(2 磯谷玲/5回) 大学での学び、心と体の健康/キャリア形成、文献・資料の探し方、レポートの書き方、プレゼンテーションの技法/問題意識・関心</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義 20時間 演習 10時間
		新入生セミナー	
リテラシー科目		<p>(英文) This is an integrated course covering all four skills (listening, speaking, reading, and writing) with an extra focus on reading and writing. The course will also develop the students' critical thinking skills, increase their general academic vocabulary and introduce general academic skills.</p> <p>(和訳) 4技能(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)すべてをカバーする総合コースであり、特にリーディングとライティングに重点を置いている。また、批判的思考力を養い、一般的なアカデミックボキャブラリーを身に付け、一般的なアカデミックスキルを学ぶコースでもある。</p>	
		Integrated English I A	
		<p>(英文) An integrated course covering all four skills (listening, speaking, reading, and writing) with an extra focus on speaking and listening by interacting communicatively with their classmates and by listening to level-specific materials. In addition, it will increase the student's general academic vocabulary, and introduce general academic skills.</p> <p>(和訳) 4技能(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)をカバーする総合コースであり、特にスピーキングとリスニングに特に重点を置いている。クラスメートとコミュニケーションに交流したり、レベル別の教材を視聴する活動をする。さらに、一般的なアカデミックボキャブラリーを身に付け、一般的なアカデミックスキルを学ぶコースでもある。</p>	
		Integrated English I B	

Integrated English II A	<p>(英文) This is an integrated course covering all four skills (listening, speaking, reading, and writing) with an extra focus on reading and writing. The course will also develop the student's critical thinking skills, increase their general academic vocabulary and introduce general academic skills.</p> <p>(和訳) 4技能 (リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング) をすべてをカバーする総合コースであり、特にリーディングとライティングに重点を置いている。また、批判的思考力を養い、一般的なアカデミックボキャブラリーを身に付け、一般的なアカデミックスキルを学ぶコースでもある。</p>	
Integrated English II B	<p>(英文) An integrated course covering all four skills (listening, speaking, reading, and writing) with an extra focus on speaking and listening by interacting communicatively with their classmates and by listening to level-specific materials. In addition, it will increase the student's general academic vocabulary, and introduce general academic skills.</p> <p>(和訳) 4技能 (リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング) をカバーする総合コースであり、特にスピーキングとリスニングに特に重点を置いている。クラスメートとコミュニカティブに交流したり、レベル別の教材を視聴する活動をする。さらに、一般的なアカデミックボキャブラリーを身に付け、一般的なアカデミックスキルを学ぶコースでもある。</p>	
Advanced English I (EAP Reading I)	<p>(英文) This is a course with the primary focus on reading in English.</p> <p>(和訳) 英語の読解に主眼を置いたコースである。</p>	
Advanced English I (EAP Reading II)	<p>(英文) This course aims at developing reading skills in English. The course consists of two sections. One is the classroom activities — using a textbook, the students learn how to read fast and get the ideas of the contents quickly, and the other is reading outside the class.</p> <p>(和訳) このコースは、英語を読むことによって、読解力を身につけることを目的としている。このコースは2つのセクションで構成されている。1つは教室での活動であり、教科書を使い、速読の方法やリーディングマテリアルの内容を素早く理解する方法を学ぶ。もうひとつは、授業外でのリーディング活動である。</p>	
Advanced English I (EAP Reading & Vocabulary)	<p>(英文) Students increase their ability to use the most common academic vocabulary for reading and speaking English.</p> <p>(和訳) 英語を読んだり話したりするために、最も一般的な学術用語を使用する能力を高める。</p>	
Advanced English I (EAP Writing I)	<p>(英文) Students practice using a process approach to essay writing in English using academic focused topics.</p> <p>(和訳) アカデミックな話題を使って、英語のエッセイを書くためのプロセスアプローチを練習をする。</p>	
Advanced English I (EAP Writing II)	<p>(英文) Students practice using a process approach to essay writing in English using different styles of writing.</p> <p>(和訳) アカデミックな話題を使って、英語のエッセイを書くためのプロセスアプローチを練習をする。</p>	
Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Public Speaking])	<p>(英文) Students focus on speaking and organizational skills for use in front of an audience.</p> <p>(和訳) 聴衆に向かって話すスキルや、その内容を構成するスキルに焦点をあてる。</p>	

Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Presentation])	(英文) Students focus on organizational and speaking skills to give clear and effective presentations. (和訳) 明確で効果的なプレゼンテーションを行うための、話し方やその内容を構成するスキルに焦点をあてる。	
Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Discussion & Debate])	(英文) Students focus on speaking and organizational skills for giving points of view and having discussions. (和訳) ディスカッションにおいて意見を述べるスキルや、その内容を構成するスキルに焦点をあてる。	
Advanced English I (EAP Listening & Speaking [World Englishes])	(英文) Students focus on improving their pronunciation and listening skills through the exposure and awareness of different world Englishes. (和訳) 世界の様々な英語に触れ、意識することを通して、発音とリスニングの上達に焦点をあてる。	
Advanced English I (EAP Language for Communication)	(英文) This is the course with the primary focus on English grammar for communication. (和訳) コミュニケーションのための英文法に焦点をあてたコースである。	
Advanced English I (EAP Media Literacy)	(英文) Students use authentic English materials from various media to practice reading, writing, speaking, and listening. (和訳) 新聞、テレビ、WEBなど様々なメディアにおいて実際に使われている英語を教材とし、その英語を読み、書き、話し、聴き取れるよう練習する。	
Advanced English I (EAP Communication & Culture)	(英文) In this course, using videos as learning material, students will improve their communication abilities, and deepen intercultural understanding. (和訳) このコースではビデオを教材として、コミュニケーション能力を向上させ、異文化理解を深める。	
Advanced English I (EAP Career Preparation)	(英文) Students focus on and cultivate the English skills and language they will need in their future careers. (和訳) 将来のキャリアに必要な英語力・語学力に焦点を当て、その能力を育成する。	
Advanced English I (EAP Integrated Skills [World Perspectives])	(英文) This is an EGAP course that incorporates content from all academic disciplines and works on generic academic skills and preparation for international English tests. (和訳) あらゆる学問分野の内容を取り入れたEGAPコースで、一般的なアカデミックスキルや国際的な英語テストの対策を行う。	
Advanced English I (EAP Integrated Skills [Arts & Sciences])	(英文) This is an EGAP course that incorporates content from arts and science and works on generic academic skills with an emphasis on presentations. (和訳) 文系・理系の内容を取り入れたEGAPコースで、プレゼンテーションを中心とした一般的なアカデミックスキルに取り組む。	

Advanced English I (EAP Integrated Skills [World Connections])	(英文) This is an EGAP course that incorporates content from all academic disciplines and works on generic academic skills with extra emphasis on speaking and listening. (和訳) すべての学問分野の内容を取り入れ、特にスピーキングとリスニングに重点を置いた一般的なアカデミックスキルに取り組む。	
Advanced English I (EAP Basic 4 Skills)	(英文) This is a required course for the students whose TOEIC scores during the previous academic year did not reach 400. The students practice basic listening and reading strategies for success when taking TOEIC. (和訳) 前年度のTOEICスコアが400点に達していない学生の必修科目である。TOEIC受験で合格するための基本的なリスニングとリーディングのストラテジーを練習する。	
Advanced English II (Academic Skills Development: Listening & Speaking)	(英文) An English course for all levels that incorporates content from academic disciplines with a focus on listening and speaking skills. Students learn and practice the language and skills needed for academic and professional contexts. (和訳) 全レベル向けの英語コースで、リスニングとスピーキングに重点を置きながら、学術的な分野の内容を学習する。アカデミックな場面や専門的な場面で必要とされる言語やスキルを学び、実践する。	
Advanced English II (Academic Skills Development: Reading & Writing)	(英文) An English course that incorporates content from a variety of academic disciplines with a focus on reading and writing skills. Students learn and practice reading and writing skills and strategies needed for academic and professional contexts. Students are exposed to diverse ideas and perspectives in order to develop self-awareness, social awareness, and self-management skills. (和訳) リーディングとライティングのスキルに重点を置き、さまざまな学問分野の内容を取り入れた英語コース。大学・職業上で必要とされるリーディング・ライティングスキルとストラテジーを学び、練習する。自己認識、社会認識、自己管理能力を養うため、多様な考え方や視点に触れる。	
Advanced English III (Academic Topics)	(英文) An English course that incorporates content from a variety of academic disciplines with a focus on building academic listening and speaking skills. Students use clear models and step-by-step planning in order to give presentations and write reports on global topics and their specialized fields of study. (和訳) アカデミックなリスニングとスピーキングスキルアップに重点を置き、様々な学問分野の内容を取り入れた英語コース。グローバルな話題や専門分野について、明確なモデルや段階的な計画を用いて、プレゼンテーションを行ったり、レポートを書く練習をする。	
Honors English I	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. In addition, it will increase the student's general academic vocabulary, and introduce general academic skills. (和訳) 上級レベルのコースであり、ディスカッション、リスニング、リーディング、ライティングの英語の4技能を使用し、クラスでの課題やプロジェクトに取り組む。さらに、一般的なアカデミックボキャブラリーを身に付け、一般的なアカデミックスキルを学ぶコースでもある。	
Honors English II	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 上級レベルのコースであり、ディスカッション、リスニング、リーディング、ライティングの英語の4技能を使用し、課題やプロジェクトをこなす。	

Honors Seminar	<p>(英文) There are two components to the Honors Seminar. First, Honors students will prepare for and participate in 2 days of English-only activities on Mine Campus. They will use the four skills to prepare for developing leadership skills while doing tasks in English such as science projects, team challenges, active discussions, presentations, and debate. And second, students will complete required first-year EPUU activities such as attending the Speaking Lab and X-reading.</p> <p>(和訳) 上級レベルのコースであり、峰キャンパスで年間2日行われる英語集中プログラムに参加し、サイエンスプロジェクト、チームチャレンジ、ディスカッション、プレゼンテーション、ディベートなど、英語で課題に取り組みながら、4技能を駆使して、リーダーシップ・スキルを身に付ける。また、Speaking LabやX-readingなど、EPUUの1年生に必須のプログラムに取り組む。</p>	<p>講義 10時間 演習 20時間</p>
Language Study Abroad A	<p>(英文) For language study at English-speaking universities, English schools, etc., the class syllabus, the number of class hours, and grades are evaluated and, and the credits deemed appropriate are conferred.</p> <p>(和訳) 英語圏の大学や英語学校等における語学の学修に対し、授業シラバス、授業時間数、成績を確認し、適当とみなされる単位数を授与する。</p>	
Language Study Abroad B	<p>(英文) For language study at English-speaking universities, English schools, etc., the class syllabus, the number of class hours, and grades are evaluated and, and the credits deemed appropriate are conferred.</p> <p>(和訳) 英語圏の大学や英語学校等における語学の学修に対し、授業シラバス、授業時間数、成績を確認し、適当とみなされる単位数を授与する。</p>	
Language Study Abroad C	<p>(英文) For language study at English-speaking universities, English schools, etc., the class syllabus, the number of class hours, and grades are evaluated and, and the credits deemed appropriate are conferred.</p> <p>(和訳) 英語圏の大学や英語学校等における語学の学修に対し、授業シラバス、授業時間数、成績を確認し、適当とみなされる単位数を授与する。</p>	
Language Study Abroad D	<p>(英文) For language study at English-speaking universities, English schools, etc., the class syllabus, the number of class hours, and grades are evaluated and, and the credits deemed appropriate are conferred.</p> <p>(和訳) 英語圏の大学や英語学校等における語学の学修に対し、授業シラバス、授業時間数、成績を確認し、適当とみなされる単位数を授与する。</p>	
スポーツと健康	<p>生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の習得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高める。</p> <p>履修した運動種目の知識、技能の基本的な能力の修得を通して、心身の健康を維持し、体力向上への意識づけを図るとともに今後発展するコミュニケーション能力、リーダーシップの基盤を養成することを旨とする。</p>	
データサイエンス入門	<p>今日の社会はあらゆる分野において、情報通信技術や計測技術の発展により、多種多様な大量のデータで溢れている。そして、「21世紀の石油」とも称されるそれらのデータから価値ある情報を抽出し、それを課題解決や意思決定に活かす一連のプロセスは、一般に「データサイエンス」と呼ばれ、近年その重要性が広く認識されるようになった。本授業では、データサイエンスの基礎(データサイエンス・AIの概要や留意事項、社会での利活用の例、情報倫理、初歩的なデータ解析・分析手法)に加え、情報リテラシーとして、オフィス系ソフトウェアとウェブブラウザ、電子メールの標準的な使い方とそれらの間の有機的連携方法、ハードウェアの基本的な使い方、総合メディア基盤センターPC・学内LAN環境の理解といった内容を、講義と実習を併用した形式で学習する。</p>	<p>講義 10時間 演習 20時間</p>
SDGs入門	<p>本授業では、自然環境が守られ、暮らしやすい社会があって初めて、経済目標が達成可能になるとするSDGs Wedding cakeモデルに依拠し、SDGsのあらましや基礎的な考え方を学ぶ。その上で、各教員たちが、自らの専門分野や研究内容をSDGsに関連づけて講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(60 松金公正/3回) SDGsを学ぶ意義、宇都宮市におけるSDGsの推進、授業の振り返りを講義する。</p> <p>(71 高橋若菜/5回) SDGsの背景や歴史的潮流、本学におけるSDGsの取り組みの実践と検討を講義する。</p>	<p>オムニバス方式 講義 5時間 演習 10時間</p>

基盤 教養 科目	人間と文化への扉	「人間と文化への扉」は、人文科学における重要な論点や考え方に触れることで、基本的な知識の修得と、自ら問いを立て、それに対する答えを見出そうとする姿勢の修得を目指す。人文科学の基本的な知識を身につけ、その過程において宇大スタンダードに記載されている汎用的能力を身につけることを目標とする。	講義 15時間 演習 15時間		
	社会と人間への扉	「社会と人間への扉」は、社会科学における重要な論点や考え方に触れることで、基本的な知識の修得と、自ら問いを立て、それに対する答えを見出そうとする姿勢の修得を目指す。社会科学の基本的な知識を身につけ、その過程において宇大スタンダードに記載されている汎用的能力を身につけることを目標とする。	講義 15時間 演習 15時間		
	自然と環境への扉	「自然と環境への扉」は、自然科学における重要な論点や考え方に触れることで、基本的な知識の修得と、自ら問いを立て、それに対する答えを見出そうとする姿勢の修得を目指す。自然科学の基本的な知識を身につけ、その過程において宇大スタンダードに記載されている汎用的能力を身につけることを目標とする。	講義 15時間 演習 15時間		
	ものづくり体験	本授業では「ものづくり」を通して、ものづくりのセンス、ものづくりの精神、問題発見と解決能力、そして最も大切な、新しいものを創り出す創造性を身に付けることを目的とし、特に専門知識を必要としない「ものづくり」の製作体験をする。受講生は設定されたテーマに取組み、グループで自主的に「問題発見」「設計」「製作」「評価」をし、成果の「発表」を行うことを目的としたアクティブ・ラーニング科目である。	共同		
教養 科目	リベラル アーツ 科目	人文 科学 系 科目	思想と論理の世界A	「思想と論理の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる思想と論理における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、思想と論理の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
			思想と論理の世界B	「思想と論理の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる思想と論理における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、思想と論理の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
			思想と論理の世界C	「思想と論理の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる思想と論理における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、思想と論理の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	メディア
			人間発達の世界A	「人間発達の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる人間発達における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、人間発達の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
			人間発達の世界B	「人間発達の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる人間発達における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、人間発達の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
			人間発達の世界C	「人間発達の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる人間発達における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、人間発達の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	

文学の世界A	「文学の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる文学における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、文学の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
文学の世界B	「文学の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる文学における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、文学の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
文学の世界C	「文学の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる文学における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、文学の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
歴史の世界A	「歴史の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる歴史における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、歴史の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
歴史の世界B	「歴史の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる歴史における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、歴史の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
歴史の世界C	「歴史の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる歴史における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、歴史の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	メディア
芸術の世界A	「芸術の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる芸術における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、芸術の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
芸術の世界B	「芸術の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる芸術における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、芸術の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
芸術の世界C	「芸術の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる芸術における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、芸術の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	メディア
異文化理解の世界A	「異文化理解の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる異文化理解における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、異文化理解の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	

	異文化理解の世界B	「異文化理解の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる異文化理解における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、異文化理解の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
	異文化理解の世界C	「異文化理解の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる異文化理解における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、異文化理解の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
	言語表現の世界A	「言語表現の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる言語表現における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、言語表現の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
	言語表現の世界B	「言語表現の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる言語表現における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、言語表現の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
	言語表現の世界C	「言語表現の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる言語表現における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、言語表現の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
	生涯学習概論	教育そのものを根底から問い返すという問題意識を常に背景に置きながら、「生涯学習」が、どのように理解され、どのようにして実践されるべきかについて、受講者自身が考えていけるように講義する。授業で重視している目標は、①生涯学習および社会教育についての基礎知識の習得、②生涯学習時代への主体的・能動的対応として「考える方法」を考えること、③生涯学習実践の中心的課題として「自分自身を学ぶ」ということの学習、の3点である。	
	人権と福祉	社会福祉の根底にある基本的な理念は基本的人権を尊重することを通して個々の人間の尊厳を保障することである。本講義では、社会福祉に関する基本的な事項を概観するとともに、その根底にある基本的人権の尊重を目的とする様々な政策、サービス、理念に関して理解を深めることを目的とする。また、社会のグローバル化や少子高齢化を背景として、個々人が市民(シティズン)として社会福祉を支える主体となることが求められていることから、その主体形成としてのシティズンシップ教育についても考察する。	集中
社会科学系科目	親密圏と公共圏の世界A	「親密圏と公共圏の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる親密圏と公共圏における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、親密圏と公共圏の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
	親密圏と公共圏の世界B	「親密圏と公共圏の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる親密圏と公共圏における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、親密圏と公共圏の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
	親密圏と公共圏の世界C	「親密圏と公共圏の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる親密圏と公共圏における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、親密圏と公共圏の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	メディア

親密圏と公共圏の世界D	「親密圏と公共圏の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる親密圏と公共圏における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、親密圏と公共圏の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	メディア
グローバル化の世界A	「グローバル化の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となるグローバル化における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、グローバル化の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
グローバル化の世界B	「グローバル化の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となるグローバル化における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、グローバル化の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
グローバル化の世界C	「グローバル化の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となるグローバル化における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、グローバル化の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
経済生活の世界A	「経済生活の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる経済生活における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、経済生活の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
経済生活の世界B	「経済生活の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる経済生活における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、経済生活の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
経済生活の世界C	「経済生活の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる経済生活における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、経済生活の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	メディア
地域生活の世界A	「地域生活の世界」では、現代社会に生きる私たちにとって必要となる地域生活における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、地域生活の世界を総合的に理解できるようになることを目指す。	
地域生活の世界B	「地域生活の世界」では、現代社会に生きる私たちにとって必要となる地域生活における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、地域生活の世界を総合的に理解できるようになることを目指す。	
地域生活の世界C	「地域生活の世界」では、現代社会に生きる私たちにとって必要となる地域生活における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、地域生活の世界を総合的に理解できるようになることを目指す。	

日本国憲法	憲法とは、国民の人権を保障するために、国家権力を制限し拘束する規範である。講義では、基本的人権や平和主義、人権論を中心に検討していく。また、可能な限り最高裁判例等の事例を紹介する。憲法の基本概念を修得すること、憲法的重要判例を理解し、批判的に考察できることを授業の到達目標とする。	
グローバル化と外国人児童生徒教育	授業では、①外国人児童生徒教育の意義、②背景、③現状、④論点について講義を行う。 (オムニバス方式／全15回) (28 威 傑／1回) 多文化主義、多文化共生、多文化教育と日本語教育 (69 丸山剛史／6回) ガイダンス、外国人児童生徒教育とは、外国人児童生徒教育と母語・母文化教育、外国人児童生徒教育の教育実践事例の検討、外国人児童生徒教育の創造、まとめ・質疑応答 (78 Sueyoshi Ana／1回) 日本から帰国した南米系児童・生徒 (86 小原一馬／2回) 外国人教育と日本人教育に共通する階層格差問題、外国人児童生徒教育における教師のジレンマと葛藤 (184 田巻松雄／3回) 外国人児童生徒教育問題の背景、多様な学び1：定時制高校、多様な学び2：夜間中学 (187 若林秀樹／2回) 公立中学校日本語教室担当の経験、外国につながる子供の教育を学ぶということ	オムニバス方式
現代政治の理論と実際	現代政治はまさに生きものであり、刻々と変化する。この授業では、紙媒体の新聞報道やインターネット情報をもとに、とくに新聞報道を素材にして、その時々タイムリーな課題に注目しつつ、日本および世界における政治のダイナミズムを論じる。現在進行形で生じている政治・政策課題や社会的課題について取り上げ、これを前半の授業では中心に進める。基本的にその年その年の大きな政治課題を取り上げる。考察の対象を国内外に向け、国家間関係の変容や国家戦略を把握し、国際組織からコミュニティ組織まで様々な諸アクターの相互動態を探る。	
遊びの理論とゲーム開発	前半では、遊びとは何か、人はなぜ遊ぶのか、人が「楽しい」と感じるのはなぜなのかを考察してきた理論を学び、後半では、そうした理論に基づいて、既存の(あまり面白くない)ボードゲームをより面白くするためのゲームバランスの調整を行うというかたちで、ゲーム開発の実習を行う。「遊び」という比較的曖昧な対象について、それを理論的に捉える方法を学ぶことで、<理論で説明する>ということがどういったことなのか、どのように理論は用いたら良いのか考えられるようになる。また実際のゲームを開発することで、そうした理論の応用の方法と、問題解決における試行錯誤の重要性を体で学ぶ。	
著作権法入門	知的財産法の中の著作権法を中心に、権利の保護のあり方、著作物の利用の仕方を知り、文化の発展に寄与することを目的とする著作権法の果たす役割を考える。著作権法について理解し、ビジネス著作権検定初級合格相当の知識を身に付け、身近な事例について考えることができることを目指す。	
国際協力の実際と課題	国際協力の現場は、一つの学問だけでは問題が解決されず、様々な分野の融合によって総合的に解決していくことが多い。本授業では、農学部で開講されている同じ授業と合同で実施され、農学部の学生とともに、そのような国際協力の現場を理解するとともに、国際協力にどのような専門性が求められているのかを理解し、今後のキャリア形成へとつなげていく。相乗効果の大きな「キャリア形成への意欲」や「学びの方向性の明確化」を参加学生が獲得することを目的とする。	
知的財産権概論	知的財産権は、製造業を含むあらゆる産業においてビジネスを展開するうえで重要である。知財は、企業活動において盾にも矛にもなる武器である。特許、意匠、著作権など、知的財産権全般についての基礎知識と、企業の知財戦略の考え方について学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (188 須長 英男／9回) 特許法概説、発明創作、意匠法概説、商標法概説、不競法概説・海外制度、特許調査、先行意匠・先行商標調査、身近な商品・サービスと知的財産権 (201 押久保 政彦／6回) ガイダンス、知的財産概論・弁理士の役割、著作権法概説、知的財産権の効力・紛争、契約、知的財産を活用した経営戦略、企業における知財戦略	オムニバス方式

自然科学系科目	自然科学の世界A	「自然科学の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる自然科学における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、自然科学の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
	自然科学の世界B	「自然科学の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる自然科学における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、自然科学の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
	自然科学の世界C	「自然科学の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる自然科学における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、自然科学の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
	科学技術の世界A	「科学技術の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる科学技術における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、科学技術の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
	科学技術の世界B	「科学技術の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる科学技術における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、科学技術の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
	科学技術の世界C	「科学技術の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる科学技術における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、科学技術の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
	人間生活と生物の世界A	「人間生活と生物の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる人間生活と生物における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の習得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、人間生活と生物の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
	人間生活と生物の世界B	「人間生活と生物の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる人間生活と生物における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の習得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、人間生活と生物の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
	人間生活と生物の世界C	「人間生活と生物の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる人間生活と生物における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の習得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、人間生活と生物の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
	人間社会と情報の世界A	「人間社会と情報の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる人間社会と情報の世界における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の習得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、人間社会と情報の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	

人間社会と情報の世界B	「人間社会と情報の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる人間社会と情報の世界における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の習得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、人間社会と情報の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
人間社会と情報の世界C	「人間社会と情報の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる科学の発展における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、人間社会と情報の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。 今日の社会は、情報通信技術や計測技術の発展により、自然現象・社会現象に関する多種多様な大量のデータで溢れており、それらの現象を科学的に理解するためにはデータ分析が必要となる。そのデータ分析では、情報学の手法によってデータを処理し、統計学を用いてデータの特徴・規則性を見つけ出し、確率論の言葉によって対象となる現象を数学的に表現する。そしてこれら一連のデータ分析プロセスは、あらゆる分野のデータサイエンスにおいて中心的な役割を担っている。本科目ではデータサイエンスの基盤となる統計学（及び確率論）の基礎を講義形式（オンデマンド）で学習する。	メディア 共同
人間生活と健康の世界A	「人間生活と健康の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる人間生活と健康における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、人間生活と健康の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
人間生活と健康の世界B	「人間生活と健康の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる人間生活と健康における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、人間生活と健康の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	メディア
人間社会と科学の世界A	「人間社会と科学の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる科学の発展における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、人間社会と科学の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
人間社会と科学の世界B	「人間社会と科学の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる科学の発展における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、人間社会と科学の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	
人間社会と科学の世界C	「人間社会と科学の世界」は、現代社会に生きる私たちにとって必要となる科学の発展における多様な論点や考え方に触れることで、幅広い知識の修得と科学リテラシーの向上を目指す。また、本授業での学びを通じ、人間社会と科学の世界を統合的に理解できるようになることを目指す。	メディア
ICTを活用した教育の理論と実践	中・高等学校の全ての教員に必要なICTを活用した教育の意義やなぜ必要なのかを理論的に解説する。また、ICTを活用した授業設計の方法や注意点などについて具体的に解説する。ICTを活用した教育の意義を理論的に説明できること、ICTを活用した授業を設計することができることを授業の到達目標とする。	講義 10時間 演習 5時間

	バイオメテイクス入門	生物が持つ高度な機能や製造過程を模倣して、技術開発に活かす学問領域バイオメテイクス(生物模倣技術)に関して体系づけて解説する。基本的な生物の組織構造から地球環境全体から見た「技術体系」、そしてこの学問領域の研究・市場動向、生物が進化によって得てきた効率的な動きや構造がいかに技術開発に用いられているのかを学ぶ。生体力学(バイオメカニクス)から生体模倣技術(バイオメテイクス)が生まれた経緯や技術開発過程を習得することを目的とする。また同時に技術研究開発の実践過程についても触れ、工学研究の基礎を身につける。また最新の研究や技術に関する情報調査能力、グループワークによるコミュニケーション能力を養う。	
	物質・材料の機器分析入門	大学の研究室や分析の現場に常備されているような汎用型の分析機器を多数取り上げ、各機器に対して原理、機能、特徴などを横断的に概括する。機器分析法の全体像、種々の分析機器に関する横断的かつ概括的な理解、知識を得ることを目標とする。	
	食と生命のフィールド実践演習	附属農場における実習と関連する事前学習と事後ディスカッションを通じて、我々の生活を支える食・環境・生命について体験的に学ぶことを目的としたアクティブ・ラーニング科目である。 (オムニバス方式/全19回) (19 高橋行継/5回) 水稻の科学、水稻播種、水稻移植、水稻管理、水稻収穫・調整 (23 長尾慶和/7回) オリエンテーション、ウシとミルクの科学、ヒツジの飼養管理、ウシの飼養管理、ウシの搾乳・哺乳、乳製品加工、実習の振り返り (77 柏寄勝/2回) 作業機械の最前線、作業機械操作 (108 大島潤一/1回) 森林管理と環境保全 (164 池田裕樹/4回) 果樹の科学、果樹栽培管理、果樹収穫・選別	オムニバス方式
	データサイエンス基礎	今日の社会は、情報通信技術や計測技術の発展により、あらゆる分野において多種多様な大量のデータで溢れている。そしてそれらのデータから価値ある情報を抽出し、予測、意思決定、自動化、最適化、課題解決等に活用する一連のプロセスは、一般に「データサイエンス」と呼ばれ、近年その重要性が広く認識されるようになった。本科目では、データサイエンスの基礎となる『数理的思考に基づくデータ分析手法(Excel)』を講義と実習を併用した形式で学習する。また、数学に苦手意識のある人でも理解できるように、基礎的内容を重点的に解説する。	共同 講義 20時間 演習 10時間
	データサイエンスのための数学	データサイエンスでは数学的思考に基づいてデータを取り扱い、戦略・施策に生かすことが求められる。本授業では、データサイエンスの基盤となる数学のうち、ベクトルと行列、微分積分の基礎的な講義を行う。高校で数学Iのみしか履修していない場合も考慮し、高校分野の復習から講義を構成する。なるべく説明は少なくし、演習の時間を多くとる。演習の時間はグループで教え合って、時間内に出来るだけ全員が多くの問題を解けるようになることを目指す。手を動かして計算することを通して、データサイエンスの基盤となる数学的テクニックへの理解を深める。最終的には、本授業から実際のデータサイエンスにおいて、より高度な数学を実践できる基盤を作る。	
初修外国語系科目	フランス語基礎Ⅰ	この授業では、初めてフランス語に接する者を対象として、フランス語の文法の基礎を中心に学習する。まず発音を正確にできるようになることが肝心となる。次に重要なのが動詞の活用である。基礎的な動詞に関しては何度となく反復練習と小テストをくりかえし徹底的に身につけてもらう。これらの基礎を元に、より複雑な文法学習に取り組む。後期科目の「基礎Ⅱ」と合わせて教科書1冊を用い、初級レベルの文法事項のほぼ全てを学ぶ。	
	フランス語基礎Ⅱ	この授業では、初めてフランス語に接する者を対象として、フランス語の文法の基礎を中心に学習する。まず発音を正確にできるようになることが肝心となる。次に重要なのが動詞の活用である。基礎的な動詞に関しては何度となく反復練習と小テストをくりかえし徹底的に身につけてもらう。これらの基礎を元に、より複雑な文法学習に取り組む。「基礎Ⅰ」に続く科目で、初級レベル後半の文法事項を学ぶ。	

	スペイン語基礎 I	この授業は、スペイン語を初めて学ぶ人を対象にしている。テキストを用いて、アルファベットや発音、文法の成り立ち等の基礎的な文法を中心に学んでいくが、それと同時に、スペイン語を使う国の文化や社会、歴史についても触れていく。スペイン語の発音や名詞の性、動詞の活用、基本的な文法規則など基礎的なスペイン語の習得を目指していく。また、ラテンアメリカ諸国やスペインといった国の社会や文化への理解についても、スペイン語の学習を通して深めていく。	
	スペイン語基礎 II	この授業では、テキストやプリントを適宜用いながら、新出の単語や文法規則を中心に学んでいく。また、各課の内容と関連する会話表現等についても学習していく。さらに、授業を通してスペイン語を使う国の社会や歴史、文化についても触れていく。本授業では、「スペイン語基礎 I」で学んできた動詞の活用や基礎的な文法、定型表現などを基盤に、多様なスペイン語の文章に触れてもらいながら、基本をしっかりと固めていく。また、自分自身の身の周りの生活や習慣等を易しいスペイン語で、文章や会話として表現できるようにする。	
	中国語基礎 I	初心者を対象に中国語の発音からスタートし、やさしい挨拶と日常会話、また、初歩的な文法事項などを教える。中国語を学ぶ第一歩としての本授業は、前期15回の学習を通して、中国語の発音が正しく出来ること、簡単な会話や最も初歩的な文法を理解し応用できること、さらに、今の中国人と中国社会全般への関心と理解を持ち、中国に関する知識と教養を有することを目標とする。	
	中国語基礎 II	「中国語基礎 I」を終えた方を対象に、中国語の基礎文法を本格的に学ぶ。文法事項を多くの例文を通して理解した上で応用を通して記憶する。文の排列順序、実用的な慣用表現・会話表現などを教え、中国の文化や歴史に関する様々な話もする。中国語に関する基礎的な学力を身につけることを目標とする。具体的には、自分の大学・趣味・家族構成・買い物など、言わば、日常的で初歩的な中国語によるコミュニケーションができるように到達すること、また、中国を知りそれなりの理解を示し、その隣国と仲良く付き合っていく心構えを持つことを中国語の時間を通して目指していく。	
	韓国朝鮮語基礎 I	韓国朝鮮語と日本語は語順や文法構造など非常に類似している。そのため、日本人にとって馴染みやすく、最も習得しやすい外国語でもある。本授業では、このような韓国朝鮮語の特徴を踏まえた上、まず韓国朝鮮語の基本となる文字（ハングル）の読み・書きをはじめ、発音や基本フレーズなどをしっかり身に付ける。そして、韓国朝鮮語で簡単な自己紹介や挨拶ができるように学習する。初習者向けとして韓国朝鮮語の基礎能力を養う。	
	韓国朝鮮語基礎 II	韓国朝鮮語と日本語は語順や文法構造など非常に類似している。そのため、日本人にとって馴染みやすく、最も習得しやすい外国語でもある。本授業では、このような韓国朝鮮語の特徴を踏まえた上、前期で習得した文字や基本フレーズを確かめながら、基礎会話能力を向上させるための語彙・文法を中心に学習する。したがって、積極的に話せる姿勢を身につけ、少しずつ表現力を養っていく。さらに言葉を支えている韓国朝鮮の伝統文化や歴史、あるいは韓国朝鮮事情など、多方面から韓国朝鮮語の全体像を概観する。	
総合系科目	Iより始めよ	大学生活の中で、自信が持てない、積極的に行動できない、理解できない講義が多い、などと思っており、これらを何とかしたいと強く望む人のための、「自律性」を目指す実践プログラムである。単なるスキルアップ(how to型)の授業ではなく、また、いわゆる自分探しの授業でもない。自分と世の中をそれぞれ客観的に認識することを目指していく。毎週、思考し、かつ手足口を動かし学習する。	講義 10時間 演習 20時間
基盤キャリア教育系科目	基盤キャリア教育A	クランボルトの「計画的偶発性理論」をベースに、大学生活において出会う様々な学び・経験・出来事を、自分を前向きに変えていく機会と捉える視点を身に付ける。文献や講話から人生/世間への向き合い方を学び、大学4年間をどのように過ごすべきか考え、行動計画を立てる。	
	基盤キャリア教育B	経済・社会のシステムの変化に伴い働き方も多様化している。自分らしく生き生きと生きるために生涯を通じてどのように職業とかかわるのか、どのような職業人生を生きるのか、そのために大学生活をどう送るのか、など、自らのキャリアデザインを描き、行動する力が求められている。この授業は、自分の将来を考えキャリアデザインを具体的に描くための考え方、きっかけ、知識、方法等を提供する基礎的なキャリア科目である。	

				ベンチャー企業の事例や、実際の起業家との対話を通じ、「起業」という社会活動について学習し、これからの若者に必要とされる資質や起業家精神（アントレプレナーシップ）を養う。また、実際に自らのビジネスアイデアを考え、他者にプレゼンテーションすることで、企画・提案の楽しさを体験するとともに、ビジネスに必要な基礎的なスキルを習得する。	
				事前に活動期間及び活動内容を定めて提出した申請書に基づく、特定の授業科目に対応付けされないインターンシップ制による実務体験活動について、教育上の実績を活動報告書等により評価し単位認定する。	
				企業や官公庁など実際の職場での就業体験を通じて、社会人として必要な基礎力を養うとともに、企業・仕事・働くことを理解する。社会的・職業的自立に必要な知識を身につけ、その過程において宇大スタンダードに明記されている汎用的能力（6つの力）を身につけることを目標とする。	
		高度教養科目	高度教養セミナー	この授業では、各受講生が3年次までに修得した専門的知識・技能を基にして、自ら立てた問いについて他者と対話する力を身につけることを目指す。具体的には「社会実装応用演習2」（3年次後期）に関連して学習・研究した内容を中心に、他者にプレゼンテーションを行い、異なる専門的知識・技能を修得しつつある他者と対話したり協働する力を身につける。異なる専門領域・興味を持った他者に自身の学習・研究内容を説明したり、疑問点を質問したり議論をすることができることを授業の到達目標とする。	講義 5時間 演習 10時間
専門教育科目	数理・データサイエンス科目	必修科目	プログラミング演習1	Pythonを用いたプログラミングの基礎の学修と演習を行う。動的言語の特性を活かして機動的にデータの収集・分析・活用などを行い、種々の問題の解決に必要なプログラムを作成するための基本的な知識と技能を修得する。授業では、Pythonの基本文法だけではなく、機械学習や実験計画、ウェブスクレイピングなど各種の応用例の紹介を行うとともに、一部課題解決に向けた、データ分析やアプリケーション作成などの演習を行う。Pythonを用いてデータの収集や整理、分析、簡単なアプリケーションの作成が出来るようになることを到達目標とする。	講義 10時間 演習 20時間
			AI・機械学習入門	AI (Artificial Intelligence: 人工知能) は現在では至る所に使用されている。声で話しかけるとスマートフォンが答えてくれたり、顔認証でロックが解除されたり、通訳や翻訳もAIによって各段に精度が上がっている。囲碁AIや将棋AIもプロに勝利するレベルであり、ロボット制御や自動運転等、例を挙げたらキリがない。「AIとは何か」からはじめて、現在のAIブーム（第3次AIブーム）のきっかけとなった機械学習のしくみ（アルゴリズム：計算手法）について、やさしく解説する。	
			確率・統計1	今日の社会は、情報通信技術や計測技術の発展により、自然現象・社会現象に関する多種多様な大量のデータで溢れており、それらの現象を科学的に理解するためにはデータ分析が必要である。そのデータ分析では、情報学の手法によってデータを処理し、統計学を用いてデータの特徴・規則性を見つけ出し、確率論の言葉によって対象となる現象を数学的に表現する。そしてこれら一連のデータ分析プロセスは、あらゆる分野のデータサイエンスにおいて中心的な役割を担っている。本科目ではデータサイエンスの基盤となる確率論と統計学（記述統計）の基礎を講義・演習形式で学習する。	講義 26時間 演習 4時間
			確率・統計2	今日の社会は、情報通信技術や計測技術の発展により、自然現象・社会現象に関する多種多様な大量のデータで溢れており、それらの現象を科学的に理解するためにはデータ分析が必要である。そのデータ分析では、情報学の手法によってデータを処理し、統計学を用いてデータの特徴・規則性を見つけ出し、確率論の言葉によって対象となる現象を数学的に表現する。そしてこれら一連のデータ分析プロセスは、あらゆる分野のデータサイエンスにおいて中心的な役割を担っている。本科目では、確率論の理論的側面（離散・連続型確率分布等）と統計学のデータ分析への応用例（回帰分析）について講義・演習形式で学習する。	講義 26時間 演習 4時間
		学系必修科目		データサイエンスの数理A	多変数関数とは $f(x, y, z, \dots)$ のように複数の独立変数を持つ関数のことである。多変数関数の微積分は、データサイエンスの様々な場面で重要な役割を担っている。例えば、機械学習アルゴリズムでは多変数関数の極値から最適なパラメータを求めることがよくある。本授業では、1年次開講の「データサイエンス・経営学の数理及び演習A」で学んだ1変数関数の微積分を発展させ、多変数関数の微積分に関する講義を行う。

	データサイエンスの数理B	本授業では、1年次開講の「データサイエンス・経営学の数理及び演習B」で学んだベクトルや行列の基本に続き、固有値や固有ベクトルなど行列に関する諸概念を理解する。具体的には、線形変換と行列表現、固有値と固有ベクトル、行列の対角化を解説し、その都度、演習課題を通して理解を深める。これにより、線形代数の基礎知識、計算力を習得する。さらに、線形代数が現実の問題を数学的に表現し、その解決にいかにも有用であるかを理解するために、データサイエンスや経営学での応用事例も紹介する。	講義 16時間 演習 14時間
	プログラミング演習2	この演習では、C言語の特長を理解すると共に使い方を修得する。まず、ソート（バブルソート、挿入ソート、選択ソート、クイックソート）を題材とした簡単な課題に対するプログラミングに取り組む。次に、ポインタ（変数、関数、文字列、配列）、動的なデータ構造（メモリ管理、構造体、共用体）、ファイル管理、コマンドライン引数など、より実践的なプログラミング技法について学ぶ。本授業では、基礎的なプログラムの作成ができるようになることを授業の到達目標とする。	
	AI・機械学習論1	今日、AIと称される技術の根幹を支えるのが機械学習である。この授業では、回帰・分類問題の基礎からニューラルネットワーク等の数理的理解に重きを置き、ツールとしての機械学習の使用だけではなく「理解して使う」「課題に直面したとき基礎に立ち返る」「今後の発展的な学修への接続性」を意識しつつ学修を進めていく。機械学習の代表的な手法（回帰・分類、ニューラルネットワーク）の概要や数理を理解することを授業の到達目標とする。	
	数理統計学	膨大なデータから有用な情報を抽出し、合理的な結論を導くためには、収集されたデータから問題解決のために推測される結論の信頼性を評価するなどの統計学の知識は不可欠である。また、経済予測や保険・年金の設計、商品コンセプトの創出など、人間と情報とのかかわりが生じる場面においても確率や統計は必要になる。データを含め広い意味での情報に対して問題解決の糸口を見つけ出す統計的思考が養えるように、統計的推定や仮説検定、ベイズ統計についても講義する。	
	データエンジニアリング	本授業では、データの利活用に欠かせないデータエンジニアリングに関する基礎知識と技術を習得する。具体的には、ビッグデータとデータエンジニアリング、データ表現、データ収集、データベース、データ加工、ITセキュリティ、データ可視化を解説し、その都度、演習課題を通して理解を深める。演習課題では、公的統計や社会調査のオープンデータやデータアーカイブを利用して、データ処理についてのプログラミング力を身に付けるだけでなく、実践的な考察力も鍛えていく。	講義 18時間 演習 12時間
	AI・機械学習論2	深層学習（Deep learning）はAI分野に革新をもたらした技術であり、画像認識や自然言語処理などの広い分野で現在使われている。本授業では、深層学習の仕組みを担っている数学的基礎を学び、プログラミングを用いた演習によって深層学習の実装力を取得する。深層学習の代表的な手法である畳み込みニューラルネットワーク、再帰型ニューラルネットワーク、生成モデルの数学的基礎を理解すること、上記手法をフレームワークを用いずに実装できること、上記手法を深層学習フレームワークTensorFlow/KerasあるいはPyTorchを用いて実装できることを授業の到達目標とする。	講義 20時間 演習 10時間
選択科目	AI活用実践演習	本講義では、AI・機械学習を使うために必要な技術、環境構築、評価方法実践実習を通して、AI活用の流れを学ぶ初心者向けの実践演習講座である。また、最新のAI技術（主にディープラーニング）を支えるハードウェアの知識、ソフトウェアの知識、環境構築方法についての技術の解説や、ChatGPT、物体検出AIの動向を紹介する。また、受講者をグループに分け、実際に物体検出AIを作成するAI開発の実習を通して、作成したAIの精度や、得られたデータをどのように活用することでどのようなメリットが得られるのか、経営的な視点で分析し、グループディスカッションを行うことでAI活用の経営における実践的な視点を学ぶ。	集中
	多変量解析	様々なセンサから収集される莫大なデータを分析し、データが持っている特徴を読み解くための統計的手法について講義する。観測・計測されたデータを基に現象の結果とそれに影響を及ぼすと考えられる複数の要因とを結びつけ、現象の理解と解明、予測が可能となる基本的なモデルの構築法、また、データからさまざまな要因によって生じる現象の未知のリスク予測モデルの構築法を学ぶ。また、構築したモデルの良し悪しの評価も重要になるので、その評価基準についても学ぶ。さらに、取り扱うデータの中身を見やすくするためのデータ分類・圧縮法を学ぶ。これらの方法をデータ分析の目的に応じて選択・利用でき、分析結果の解釈に役立てられるようになることを意識して学修を進めていく。	

		データベースシステム	データベースの概要、リレーショナルデータモデル、データ操作言語とデータベース言語SQLによる問い合わせ、データ操作、データベース管理システムのトランザクション管理について講義する。大量のデータを安定的に格納、更新し、これを効率良く検索することを目的とするデータベースシステムがどのように構成され、また、複数のユーザが同じデータベースにアクセスした際の挙動や、様々な障害に対してデータの安全性を確保する方法を理解することを授業の到達目標とする。	
		時系列解析	我々の身の回りには、様々な時系列データ、つまり、時間と共に変化するデータ、例えば、あるコンビニの毎月の売り上げ、日によって上下する株価、音声データや映像データなど、がある。これらの時系列データを理解するためには、その変化の特徴を見極め、その特徴から時系列データのモデル化を考える必要がある。これら一連の解析法について講義しつつ、どのような場面で用いることができるのか、時系列データへの活用事例も用いて学修する。	
		数値解析	現代においてコンピュータを用いた数値解析あるいは数値計算は、自然科学・工学・社会科学・創薬/医療分野など様々な分野で用いられ我々の生活の基盤を支えているとともに、急速に発展するデータサイエンスや機械学習分野における基盤をも与えている。この授業では、数値計算にまつわる諸問題について説明するとともに演習を行いつつ、自身が各ドメインにおけるシミュレーションを行うための基礎的知識を修得する。 データサイエンス・経営学の諸分野において、ドメイン知識を組み合わせる数値シミュレーションプログラム等を作成できるようになることを授業の到達目標とする。	講義 20時間 演習 10時間
		システム解析入門	入力と出力の間にある関係をシステムと呼ぶ。特に、出力が時間的に変化するシステムを動的システムと呼び、自然科学や工学における多くの問題は動的システムによって記述される。本授業では、動的システムの基礎となる線形常微分方程式系を解析するための理論的手法を学び、プログラミングを用いて具体的な問題を解き実装力を取得する。 動的システム解析の手法であるフーリエ解析、ラプラス解析、直交多項式展開、特異値分解を数学的に理解し、周波数スペクトルや安定性などのシステムが持つ特性を調べることができるようになることを授業の到達目標とする。	講義 20時間 演習 10時間
		確率過程論	確率過程とは、時間と共に変動するランダム現象の数理モデルであり、物理学、化学、生物学、経済学、経営学等の様々な分野に応用されている。本科目では、物理学の分野で発見されたブラウン運動や、ブラウン運動の離散時間バージョンでもあるランダムウォーク等の代表的な確率過程の数理とそれらの様々な分野での応用例を解説する。特にランダムウォークの金融工学・数理ファイナンス分野での応用については詳しく解説する。 本科目ではランダムウォークをはじめとする基本的な確率過程の数理を学び、それらの数理モデルとしての有用性を理解することを授業の到達目標とする。	
経営学 科目	必修 科目	経営学概論	経営学は、経済社会の中で組織が目指す成果をあげるための営みを対象としている。また、組織が持続的にかつ成果を上げる知識を提供し、かつそのメカニズムを体系的に把握することが可能になる。今日において、その中心は企業であり、詰まるところ企業のメカニズムを理解する学問である。本講義では、導入科目として具体的な事例を踏まえ、現実問題への課題解決を取り入れ、広く授業を行う。 経営学の目的、体系を理解することを授業の到達目標とする。	
		ミクロ経済学	ミクロ経済学は経済学の基礎となる分野であり、ミクロ経済学の考え方を学ぶことは、ビジネスや私たちの日常生活における選択や行動を理解するのに役立つ。この授業では、経済学の基本概念である市場メカニズムについて学修するとともに、市場が有効に機能するための条件、市場が有効に機能しない場合の対処方法について学ぶ。さらに、市場における消費者と企業の行動を分析することにより、合理的経済主体の最適化行動について理解を深める。	

	経営管理論	<p>経営管理とは、人に働きかけて協働的な営みを発展させ、経営資源の転換効率や環境適応能力と創造性を高めて、企業目的を実現する活動のことである。</p> <p>本講義では、経営管理論の学術的発展や全体像を体系的に理解した上で、組織のデザイン、戦略の立案、経営資源の活用、組織の活性化のためのモチベーション、経営のリーダーシップなど、企業が目的を達成するのに重要な理論的概念と実践上の課題を学修する。さらに、近年のAI・ビッグデータに代表されるデジタル社会の進展に対応するため、経営管理論の新たな発展も取り上げる。</p>	
	会計学概論	<p>会計学は、企業活動を貨幣額で認識・測定することによって、企業の経済的実態を写像し、利害関係者の意思決定に資する情報を提供することを目的とする学問である。財務会計の基本的な考え方を理解することにより、企業の利益水準がどのような状況なのか（経営成績）、企業の財産や借金などがどのような状態なのか（財政状態）を明確にすることができる。本授業では、このような企業活動を理解するうえで不可欠な会計学の基本的な考え方を体系的に学び、その基礎概念を学修する。</p>	
学系必修科目	金融論概論	<p>企業をはじめとして個人においても、金融メカニズムは必須な素養となりつつある。企業経営や経営環境を理解する上で、制度やその機能を理解することが重要である。本講義では金融仲介機関、それを取り巻く諸制度とその変遷、具体的な実体経済と金融との関連を中心に、金融の構造や現代社会システムにおける機能について考察する。また主にアメリカの事例を取り上げる。</p> <p>金融の仕組みについて理解すること、現代社会における金融の機能や役割について理解することを授業の到達目標とする。</p>	
	経営戦略論	<p>経営戦略は、経営活動の中長期的な基本枠組みと方向性を決定する重要な分野である。具体的には、企業の競争優位の持続的な維持を目指すもので、企業の存続や業績に影響を与える企業経営の経営運営基本方針となる。経営戦略は、とりわけ変化する外部環境への企業の適応と持続的活動の実施にとって極めて重要である。本講義では、経営戦略の学説の中でポジショニング分野とリソースベースビュー分野を中心とし、その利用方法論を具体的に展開する。また、理論の応用能力を培うために事例分析を取り入れる。</p>	
	コーポレート・ガバナンス論	<p>コーポレート・ガバナンスは、社会の重要な主体の一つである企業を対象とし、競争力の向上と企業不祥事の抑制を目的とする。具体的には、企業構造の改革や意思決定などを効率的に行う必要があり、そのメカニズムを理解する必要がある。さらに、ステークホルダーへの配慮や諸規制を遵守した経営行動が求められている。したがって本講義では、企業改革、意思決定のメカニズムと、これらを行う上での組織構造と諸規制について学修する。</p>	
	財務会計論	<p>企業は、自身の経営を正しく把握する目的や、経営成績を利害関係者に報告する目的で財務会計を実施している。</p> <p>また、現代社会において資本市場が高度化するとともに企業の影響力は増々大きくなっており、財務会計の理解が社会生活において不可欠なものとなりつつある。</p> <p>本授業では、今後より一層、重要性を増していくであろう企業の財務会計について、企業の業務活動プロセスと関連させながら理解を深めていくことを目指す。</p> <p>企業の財務会計の理解を通じて、企業活動の実態を把握できるようになること、企業の報告する会計情報（財務諸表等）を理解し、それを利用して企業経営に関する財務的な分析ができるようになることを授業の到達目標とする。</p>	
	経営組織論	<p>今日における現代社会では、その大きな主体の一つとしての組織を上げることができる。その行動・変化・均衡のメカニズムを動的視点から解明することは、現代社会で生きる重要な教養である。しかし、組織存在のそのものは、理論的にも実践的にも所与の前提になっていることが多い。したがって本講義では、組織そのものに焦点をあてる。さらに組織内部、組織外部の視点からそれぞれ考察することにより、組織持続性・維持を担保する要素を多角的に考察する力を学修する。</p>	

	人的資源管理論	人的資源管理論は、企業経営の根幹となる経営資源の一つである、ヒトについて焦点を当てた分野である。一般的に経営資源におけるヒトは、従業員であり、企業内の授業員に焦点を当てた管理方法が今日重要になっている。さらに、近年の日本企業、労働環境、労働市場を取り巻く状況は激変しており、これまでの人的資源管理に比べ変化しつつある。したがって本講義では、人的資源管理の基本的、系譜的な内容を踏まえながらも、今日の新しい事例を取り入れ、未来に向けた人的資源管理の像を考察する。	
	中小企業論	日本において、中小企業の企業数は産業全体の99%以上、従業員数で66%という高いシェアを占めており、日本経済や産業を語る上で欠かせない存在である。中小企業の多くは資金不足と人材不足、後継者不足などの問題を抱えている。これらの課題を理解するとともに、解決するために中小企業独自の経営資源に関する問題を理解する必要がある。加えて、中小企業間のサプライチェーンなどネットワークが経営上にもたらす影響に関する理解を深めることを通じて、効率的な持続的発展について習得する。また、中小企業がものづくり分野や小売の分野で果たしている役割や課題に係る理解を通じてスタートアップの育成の現状と実態と課題などについて国際的な比較も踏まえて理解を深める。	
選択科目	マクロ経済学	現実の経済では、家計、企業、政府、中央銀行などの経済主体がさまざまな経済活動に携わっている。こうした経済主体による経済活動が一国の経済に及ぼす影響を分析することがマクロ経済学の課題であり、そこから有効な経済政策を導出することがマクロ経済学の役割である。この授業では、マクロ経済学の基本を理解するために、マクロ経済指標と基礎的なマクロ経済理論について学修する。さらに、マクロ経済統計を利用して日本経済の現状と課題を明らかにし、課題解決のためにどのようなマクロ経済政策が議論されているかを紹介する。	
	企業法	今日、現代社会の主な主体の一つである企業は、各種の法律によって規制されている。それぞれの法律によって、異なる観点・目的から規制され、それらが複雑に絡み合っている。本講義では、企業活動に関連する法制度を企業法一般とし、基本的な理解を得ることを目的とする。したがって本講義では、企業を取り巻く各種の法規制を体系的にとらえながらも、主に企業経営に関わる法規制を中心に学習する。	
	管理会計論	管理会計は、企業内部の経営責任者を頂点とする各階層の経営管理者が意思決定をするためのツールである。意思決定をするためには、可能な限り経営行動の過程または結果を数値化することが必要である。したがって、管理会計の目的は、意思決定と業績管理に有効な会計情報を提供し、意思決定の基礎となる仕組みを構築することにある。本授業では、管理会計の目的と概念、原価管理・予算管理・業績管理などの考え方と手法について学ぶ。	
	NPO論	非営利組織（NPO）とは、営利を追求しない組織である。今日では、政府や地方自治体のような政府セクター、株式会社や個人商店のような企業セクター、第3の「非営利セクター」として存在する。非営利組織は、政府、企業セクターでは補足しきれない領域を担うのである。したがって本講義では、NPOなどの非営利組織の概要を知るとともに、非営利思想の意義、現代社会に果たしている重要性を認識し、非営利組織が果たす役割を学修する。	
	意思決定論	意思決定論は、組織が持続的に存続するため、不確実性の中、数値的、統計的見地を加味し、「最善と思われる解」を導き出す理論である。意思決定には、必ず設計者の意思が関係するため、主観的情報がどのように作用するかを加味する必要がある。したがって本講義では、意思決定のメカニズム、問題の複数の解決策、解決策の比較のための複数の評価軸、解決策を評価軸を用いて比較検討の力を学修する。意思決定論の目的と体系を理解することを授業の到達目標とする。	
	企業論	企業論は、企業形態、行動のメカニズムを理解する学問である。現代社会において、その行動主体は企業であり、企業の行動メカニズムを理解することが必要となっている。具体的には、企業と経営、企業形態をはじめ、所有と経営、CSR等、会社を持続的性に関する諸現象が中心になる。特に本講義では、組織内部と組織外部とを便宜的に区別し各メカニズムを明確にした上で、組織が外部（環境）に対して動的平衡を維持する諸現象が対象となる。	
	組織行動論	組織行動論は、組織における人間行動を個人、集団、組織構造との関係について焦点を当てている。また、組織がより効果的に機能するための知見を提供する分野である。組織行動論の知見は、個人の特性・認知・態度、集団の性質、組織の構造や制度など多様にある。このように、制度に焦点を当てつつも、その行動主体は人間である。したがって、感情のある人間が行動することを根底に置く必要がある。そこで本講義では、集団、組織の構造に触れながらも、主に個人に関する知見中心に展開する。	

総合・社会実装科目	必修科目	データサイエンス・経営学の数理及び演習A	データサイエンスでは数学的思考に基づいてデータを取り扱い、戦略・施策に生かすことが求められている。本授業では、データサイエンスの基盤となる数学のうち、微分積分分野の講義を行う。高校で数学Iのみしか履修していない場合も考慮し、高校分野の復習から講義を構成する。なるべく説明は少なくし、演習の時間を多くとる。演習の時間はグループで教え合って、時間内に出来るだけ全員が多くの問題を解けるようになることを目指していく。手を動かして計算することを通して、最終的に微分積分の意義について理解を深める。	講義 32時間 演習 28時間
		データサイエンス・経営学の数理及び演習B	線形代数学の基本を扱う。線形代数学は、ベクトル・行列を用いて問題を解決する手法として重要で、自然科学・工学はもちろん情報科学・社会科学は広く応用されている。授業では、次の項目を1回ないし数回に分けて講義し、演習する。 (1) ベクトルと図形への応用、(2) 行列の定義と演算、(3) 行列の正則性と逆行列、(4) 線形変換と表現、(5) 行列式の定義と性質、計算技術、(6) 連立1次方程式の解法と解の分類	講義 32時間 演習 28時間
		社会実装基礎演習1	政府統計や協力企業提供のダミーデータなど、既存のデータを用いて、課題発見及び課題解決・意思決定・価値創出に向けた提案までの一連のプロセスを演習する。5名程度の班に分かれて他者と協働しながら演習(データ分析やディスカッション)を行い、テーマごとにプレゼンテーションを行う。 データベースなどからデータを収集・整理したり、データから課題発見ができ、一部、課題解決に向けた提言を行うことができることを授業の到達目標とする。	共同
		マーケティング論	マーケティングとは、製品・サービスが売れるための仕組みづくりを体系的に理解するものである。 この授業では、基礎的なレベルのマーケティングについて講義する。具体的には、事業領域、市場セグメンテーション、製品・価格・コミュニケーション・流通チャネル戦略など、マーケティングに関する基礎的な知識の習得を目標とする。 履修者が店頭に並ぶ製品や、TVコマーシャルを見た際、その背後にある企業のマーケティング戦略の一端がわかるようになることを目指す。	
		社会実装基礎演習2	企業の現実的課題に関して、政府統計や協力企業提供のデータなど、既存のデータを用いて、課題発見及び課題解決・意思決定・価値創出に向けた提案までの一連のプロセスを演習する。具体的には、実際の企業経営課題を基に実現可能な改善案を作成し、シミュレーション、提案をする。5名程度の班に分かれて他者と協働しながら演習(データ分析やディスカッション)を行い、テーマごとにプレゼンテーションを行う。 データベースなどからデータを収集・整理したり、データから課題発見ができ、課題解決に向けた提言を行うことができることを授業の到達目標とする。	共同
		マーケティングリサーチ	マーケティングリサーチとは、マーケティングの目的に必要なデータを効果的に収集するため、その手法を設計してデータを得るプロセスを管理し、データを分析して自社のマーケティングに活用できる示唆を得ることである。 近年のAI・ビッグデータに代表されるデジタル社会の進展に対応するため、マーケティングリサーチ手法の進化についても取り上げる。 マーケティングリサーチの全体像や重要な理論的概念及び手法を理解する、経営課題の解決に応用できる能力を培うことを授業の到達目標とする。	
		経営情報論	経営情報学は、人、組織と技術の総体を経営の視点から多角的に研究する学問である。現代社会は、急速にデジタル化(情報化)が進行しており、企業経営もそこに追いつく必要がある。具体的にいうと、社会の様々な情報が、デジタル化され、さらに社会の制度や仕組みが変わりつつある。今日では、デジタル・トランスフォーメーション(DX)と言われ、その対応をしなければ生き残れない状況となっている。したがって、本講義では、企業内部において情報をどのように活用するかというメカニズムと、企業を取り巻く情報技術環境の変遷を学修する。	

<p>社会実装応用演習1</p>	<p>データサイエンス経営学部の専任教員はデータサイエンス領域、経営学領域、あるいはその両者に跨る領域を専門とし、日々研究を遂行している。本演習では各週ごとに、各学部専任教員の専門領域における最新の研究内容を演習を交えながら少人数の班単位で学習し、自身がそれまでの専門課程で修得した知識や手法が学術分野の研究や組織経営・企業における諸課題と地続きであることを理解し、それら専門知識を社会実装する方法などについて議論を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 磯谷玲・15 吉田聡太/1回) (共同) オリエンテーション、数値計算・機械学習領域の課題演習 (1 長谷川光司/1回) 音響情報処理・感性情報処理領域の課題演習 (① 白山真一/1回) 財務会計/管理会計・非営利会計/公会計領域の課題演習 (4 大嶋淳俊/1回) 組織・人材開発領域の課題演習 (5 田村傑/1回) 経営戦略論領域の課題演習 (6 河本満/1回) インタラクション拡張デザイン領域の課題演習 (7 畑中信一/1回) マテリアルズ・インフォマティクス領域の課題演習 (8 佐藤美恵/1回) 映像情報処理領域の課題演習 (9 杉田直樹/1回) マーケティング領域の課題演習 (10 加藤弘二/1回) 環境経済領域の課題演習 (11 坂巻英一/1回) ビジネスデータサイエンス領域の課題演習 (12 森田佐知子/1回) 人的資源管理領域の課題演習 (13 川面洋平/1回) 数値シミュレーション領域の課題演習 (14 土屋翔/1回) 組織論領域の課題演習 (② 熊本真一郎/1回) 数理モデル領域の課題演習</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
<p>ビジネス・データサイエンス</p>	<p>近年、企業に蓄積されたビッグデータを解析し、得られた知見を基に企業の経営改善に活用する取り組みが様々な業界において行われている。講義の前半では受講者にPOSデータを配布した上で、小売業界で日々行われているABC分析、DECILE分析といった分析手法の学習、及び、これらの分析結果を基にした経営戦略の立案に取り組んでもらう。講義の後半ではアンケート調査データを配布した上で演習を行う。講義は2変数間の関連性等に関する統計学の復習から入り、主成分分析、因子分析を用いた顧客分類をテーマに進める。終盤ではコンジョイント分析による製品開発についても学習する。講義終了時に企業に於いてデータがどのように利用されているか、をイメージできるようになることを目標に講義を進めていく。</p>	<p>講義 20時間 演習 10時間</p>
<p>社会実装応用演習2</p>	<p>データサイエンス経営学部の専任教員のうち1名の教員に配属し、少人数での演習により、4年次の卒業研究の遂行に必要な基礎能力を養う。具体的には、専任教員の指導の下で、学生自身が興味のある分野に関する先行研究を整理し、そこから研究のテーマを設定する。テーマに関連するデータや統計資料を収集し、そこから研究方法や研究内容を検討し研究計画を立てることで、卒業研究の設計を行う。卒業研究に向けた研究課題を設定すること、卒業研究に関する調査研究の設計ができるようになることを授業の到達目標とする。</p>	
<p>社会実装実践演習</p>	<p>企業の現実的課題に関して、政府統計や協力企業提供のデータなど、既存のデータを用いて、課題発見及び課題解決・意思決定・価値創出に向けた提案までの一連のプロセスを演習する。具体的には、実際の企業経営課題を基に実現可能な改善案を作成し、シミュレーション、提案をする。7名程度の班に分かれて他者と協働しながら演習(データ分析やディスカッション)を行い、各企業ごとに提案資料作成、プレゼンテーションを行う。社会実装基礎演習2で行われた内容をより実践、提案形式で行う。</p>	
<p>データサイエンス・経営学特別演習</p>	<p>学部専任教員の指導の下、少人数のグループで課題演習(先行研究の理解・再現や、文献・論文の輪読、実験やフィールドワーク等)を行う。まずは先行研究や参考文献の探し方・適切な引用の仕方など「社会実装応用演習2」「卒業研究」の遂行に必要な基礎事項を学修する。関連する研究分野の概要の理解を深めるとともに、データサイエンス分野・経営学分野における諸課題との共通項を見出したり、諸課題の解決に向けて他者と協働するマインドを養成する。第1回に授業の趣旨とゼミ・輪読等の進め方について講義を行う。受講生は本「データサイエンス・経営学特別演習」及び「社会実装応用演習2」の指導教員の下、5名程度の少人数で、各週ゼミ・輪読、演習や実験等を行う。</p>	

	卒業研究	卒業研究は、それまでの授業等で学習した知識や経験の応用として、データサイエンス及び経営学に関するテーマの研究に取り組み、問題解決のための分析と提案を行うものである。具体的には、配属される研究室において、指導教員による指導の下、研究を行い、得た資料・データを整理・分析し、論文としてとりまとめ、口頭発表を行った上で、審査を受ける。データサイエンス・経営学の基礎的な知識・理論・技術などを身につけ、自ら課題を発見したり仮説の提案ができること、データ収集・分析、論文作成などを通して、得られた知識・成果を論理的に記述したり、プレゼンテーション等で発表・討議することができることを授業の到達目標とする。	
	発表技術	プレゼンテーション・ポスター発表等における発表技術は、ゼミや輪読、卒業研究や学会発表など学術的な発表機会に留まらず、プロジェクトの立案や成果の発表など様々なビジネスシーンでも重要になるスキルである。 この授業では、卒業研究の指導教員の下、種々の発表機会における資料作成や発表における心構え、プレゼンテーションの技法等を学修する。予め決められた時間の中で、自身の学修結果や研究の成果等を分かりやすく他者に伝えたり、適切に質疑応答を行うことができることを授業の到達目標とする。	
選択科目	ゲーム理論入門	ゲーム理論は、複数の人が関わる意思決定や行動の相互作用を数学的なモデルを用いて分析する学問であり、経済学の一分野として発展してきた。現在は、経済学の中心的な役割を担っており、経営学、政治学などの社会科学全般、さらに生物学や工学においても適用されている。この授業では、ゲーム理論の基本的なモデルについて学修し、経済学、経営学、自然科学などにおける適用事例を学ぶことで、ゲーム理論の考え方を身に付け、それを私たちの身の回りの様々な現象に応用する。	
	経済・経営数学	データサイエンスが注目を集める中、企業内に蓄積されたデータを分析し、得られた情報を基に経営戦略の立案や経営改善を行うdata-driven managementと呼ばれる取り組みが多く企業に於いて行われている。企業の経営状態を分析するに当たり、様々な場面において数学的な考え方が必要となる。本講義では微分・積分といった解析学的手法、行列演算を始めとした線形代数的手法に焦点を当てた講義を行うことを目的とする。	講義 20時間 演習 10時間
	オペレーションズ・リサーチ	企業の経営現場では常に判断と決断が求められる。ところが、多くの場合、判断や決断に必要な情報は完全には揃っておらず、経営者は情報が不完全な状況で意思決定をしなければならない。情報が不完全な状況下においても数理的な根拠に基づき経営者が正しい経営判断を行えるようにすることを目的としてオペレーションズ・リサーチは発展してきた。本講義では経済・経営分野において広く利用されている線形計画法や待ち行列、ゲーム理論といった分野を習得し、数理的根拠に基づく経営戦略の立案ができるようになることを目的とした講義を実施する。	
	社会統計学	社会調査や企業経営に関するデータを推測統計学によって分析することを念頭に、区間推定や仮説検定、多変量解析の基礎理論を学ぶ。分析結果を理解し、解釈し、活用するための知識・技術を学修する。推測統計の考え方、集計、分析手法を理解すること、多変量解析の基本的な手法を知り、活用できるようになることを授業の到達目標とする。	
	数理モデル	ビッグデータが簡単に得られる時代となり、データを処理・分析するデータサイエンスの重要性が増している。データサイエンスにおいて「数理モデル」を用いて解析することは非常に有効だ。数理モデルを利用した解析は多分野にわたって様々な手法があるが、数理モデルの構築・検証・情報抽出の基本原則については自然科学分野も経済学分野も同様だ。本授業では基本的な数理モデルの解説と数理モデルを様々な問題に適用する例題・演習を通して、目的に応じた数理モデルを自ら構築・評価・応用できる能力を養う。	講義 20時間 演習 10時間
	インターンシップ	本講義では、実際に企業や自治体の事業所などで実社会での実務を体験し、仕事に対する理解を深める。企業等での実務体験を通して、自分の学習目標を確認すると共に、自らの適性を確認することを授業の到達目標とする。具体的な授業の進め方としては、次の(1)～(5)の手順で進める。 (1)4～5月に「インターンシップオリエンテーション」を開催 (2)実習先については、各自で、自主的にサイト等を参考に探しエントリーする (3)実施先が決まったら担当教員に連絡（実施先に提出する書類等があれば担当者と相談） (4)実施中は日誌、実施後はレポート等を作成 (5)終了後、インターンシップ報告会で報告	

		計量経済学	計量経済学は、経済統計や社会調査などから得られるデータを用いて経済の実態を明らかにする実証分析の方法を提供するものであり、経済学や経営学において理論と現実をつなぐ役割を担っている。この授業では、計量経済分析の基礎となる回帰分析について、分析方法とその性質について学修し、データを用いて実際に分析を行うことで理解を深める。さらに、個人、企業などの個別の経済主体を単位としたマイクロデータに適用するマイクロ計量経済分析の方法を学修する。	講義 20時間 演習 10時間
		経営分析	今日、社会を構成する大きな主体は企業であり、その多くは会社である。その会社を評価する軸は多様にあるが、中でも財務諸表をはじめとした分析視点から経営状況、問題点、将来性を把握することが重要である。これらの評価軸は、その組織体における意思決定の大きな指針となり得る。したがって本講義では、財務諸表をはじめとし、多面的な分析ツールの手法を学びつつも、対象である企業の価値評価を行う。経営分析の手法、体系を理解することを授業の到達目標とする。	
		知的財産権	人間の英知を活かした創作活動によって私たちは様々な恩恵を受けている。しかしながら、事業として商業的な利益を得るためには、それらの英知は産み出した者たちの権利として保証・保護されることが必要である。このために知的財産権という権利が世界的に認められている。大学など研究機関の研究シーズや技術シーズの産業界での利用（社会実装）を考えるにおいて、特許を代表とする知的財産権は有力な手段として活用できるものである。ときには特許権の保有の有無が事業経営や起業の成否に大きく影響する。本授業ではその基本的知識や知見について習得する。また、産業界の実務者から事業での活用について学ぶ。	
		アントレプレナーシップ論	アントレプレナーシップを学ぶにあたり、初学者に向けた講座である。アントレプレナーシップ（起業、創業）へ注目が高くなっている社会的な状況、企業で起こっている企業外からのイノベーションの誘致など、アントレプレナーシップを生じさせる構造はどうなっているのか、アントレプレナーシップと地域再生や地域活性化へ期待の背景を解説する。また、テーマを定め、受講者同士でのグループワークとしてスタートアップの実践演習を行う。これらのプログラムを通してアントレプレナーシップを広く学ぶことを目指す。受講者同士の自己紹介を行ってもらった際の魅力を引き出す、PRの仕方、プレゼンテーションコミュニケーションの中でのちょっと工夫なども具体例を元に示し、学生生活をより豊かにするエッセンスについても講義する。	
		イノベーション・マネジメント	イノベーションは、モノ・サービスをはじめとしたビジネスモデル等に新しい考え方や技術などの取り入れ、新しい価値を創造することを指す。これをマネジメントすることが、イノベーション・マネジメントである。持続的な経営をするためには、イノベーションを連続的に起こす必要がある。そのために、イノベーションの系譜的概念、メカニズム、人的資源管理を学習する。なかでも本講義では、イノベーションが形成される過程に焦点をあて、その形成段階のメカニズムも取り上げる。	集中
他学部等の科目	グローバル関連科目	International Political Economics	(英語) The course introduces students to some major topics in IPE, such as globalization, free trade, inequality, and the decline of US power. It does so by critically examining major theoretical approaches and concepts. (和訳) このコースでは、グローバル化、自由貿易、不平等、アメリカの力の衰退など、IPEにおける主要なトピックを紹介する。理論的アプローチや概念を検討する。	集中
		Global Management: Asia and Development	(英語) This course provides students with the opportunities for learning about practical knowledge, methods and approaches with regard to human resource development for SDGs. (和訳) SDGsのための人材育成に関する実践的な知識、手法、アプローチについて学ぶ。	共同、集中

			<p>(英語) This course introduces risk management principles with the practical cases in and out of Japan. In general, "risk" is defined as an (exposure to) the possibility of loss, injury, or other adverse or unwelcome circumstance; a chance or situation involving such a possibility. This course focus on disaster risk from the third class.</p> <p>(和訳) 本講座は、リスクマネジメントの原則を、国内外の実践的な事例を交えて紹介する。一般に「リスク」とは、損失、傷害、その他の不利な状況や好ましくない状況にさらされる可能性、そのような可能性を含む機会や状況のことであると定義されている。本講座では、第3回目の授業から災害リスクに焦点を当てる。</p>	集中
		International Humanitarian Law in Theory and Practice	<p>国際人道法（IHL）は法ではあるが、紛争の現場で働く人々の理念でもある。本コースは、この国際人道法の基本的な知識を得ることを通じて、紛争下における緊急人道支援の現場と実践に対する理解を深め、受講生が自身のキャリアを考える際の一助にしてほしいと考えている。最終日に受講生は、仮想のシミュレーションに基づき、人道支援団体の職員として様々なタスクに取り組む。ロールプレイを楽しみながらIHLを学ぶ。</p>	集中
		International Career Seminar	<p>本プログラムは、グローバルマインドを養う「グローバル人材」の育成のためのプログラム。「International Career Seminar」は、学内外の講師によるテーマ別の分科会ごとに、ワークショップやディスカッションを取り入れた集中授業で、授業は全て英語で行う。「働くとは何か」について考えること、自分と地域社会や世界とのつながりを考えること、主体的に関わりたい問題や分野を見つけ、今後の学びの動機を考えることを授業の到達目標とする。</p>	共同、メディア集中
		国際キャリア教育	<p>グローバルマインドを養う「グローバル人材」の育成のためのプログラム。「国際キャリア教育」は、国際キャリア教育プログラムの一環として開講するものであり、学内外の講師によるテーマ別の分科会ごとに、ワークショップやディスカッションを取り入れたメディア授業形式による集中講義。以下の3つを授業の達成目標とする。 ①「働くとは何か」について考える。 ②自分と地域社会や世界とのつながりを考える。 ③主体的に関わりたい問題や分野を見つけ、今後の学びの動機を考える。</p>	メディア集中
		海外英語研修	<p>外国語の学習には、その外国語が日常生活で使われている地域で、実際にその外国語を使って生活することが、運用能力の獲得にきわめて有効である。本授業科目の目的は、その効率的な方法に従い、マレーシアのサラワク大学（UNIMAS）で2週間の英語研修を受けて、より高度な英語の運用能力を獲得する。英語の総合的・運用能力を高めることに加えて、キャンパス内での寮生活を通じて、日本国外で生活する力を身につけることが目標である。また、各学生の専門領域の見地から、現地により深い交流をすることも望まれる。</p>	集中
データサイエンス応用科目		GIS入門	<p>地理情報システム（GIS）は、社会統計や環境情報を始めとする地域の様々な空間情報を収集して整理するとともに、解析評価するために有効なコンピュータシステムである。本演習では、GISやリモートセンシングについて基本的な理論を学習するとともに、コンピュータを用いた演習を行うことで、GISに関する初歩的な技能を習得することを目的とする。</p>	
		GIS演習（コミュニティ）	<p>地理情報システム（GIS）は、社会統計や環境情報を始めとする地域の様々な空間情報を収集して整理するとともに、解析評価するために有効なコンピュータシステムである。本演習では、GISやリモートセンシングについて基本的な理論を学習するとともに、コンピュータを用いた演習を行うことで、コミュニティデザイン分野における地域の調査や研究でGISを実際に活用するために必要な初歩的な技能を修得することを目的とする。</p>	
		GIS演習（建築・都市）	<p>地理情報システム（GIS）がどのように都市計画や地域計画に使用されているか事例を紹介し、活用手法を学んだ上で、基礎的な操作方法を学ぶ。 地理情報システム（GIS）は、社会統計や環境情報を始めとする地域の様々な空間情報を収集して整理するとともに、解析評価するために有効なコンピュータシステムだ。本演習では、GISについて基本的な理論を学習するとともに、コンピュータを用いた演習を行うことで、地域の調査や研究でGISを実際に活用するために必要な初歩的な技能を修得することを目的とする。</p>	

GIS演習（社会基盤）	地理情報システム（GIS）は、社会統計や環境情報を始めとする地域の様々な空間情報を収集して整理するとともに、解析評価するために有効なコンピュータシステムである。本演習では、GISについて基本的な理論を学習するとともに、コンピュータを用いた演習を行うことで、地域の調査や研究でGISを実際に活用するために必要な初歩的な技能を修得することを目的とする。	
社会調査法入門	この授業では、日本の村落社会を対象とした地域調査を行う際に必要とされる情報処理能力を身につけることを目標としている。受講者は、夏休みに地域調査を行なう前提で、調査町村と調査テーマを各自で決め、事前調査としての最終レポートを作成する。この最終レポートに向けて、授業の各回では、多様なデータの取集方法、グラフや表で表現する手法を学ぶ。本授業では、統計データから日本の村落社会の現状を客観的に理解すること、および、それらを通して情報処理能力の向上を目標としている。	
アジア太平洋文化社会研究 E（中東地域研究演習）	中東地域を例にとり、地域研究の具体的事例を先行研究から学ぶ。計量分析を利用して中東地域とそれを含む国際的な環境で見られる政治・社会現象を解明する。諸理論を具体的な事例に適用する思考方法、および個人的関心を普遍的問題に還元する思考方法の修得。また、先行研究の活用方法の修得。計量分析を用いて分析を行う技術を習得する。	
人工知能とコンピュータビジョン	1から8回目までは、人工知能の基礎技術から応用までを、練習問題も交えながら実施する。 また、9から15回目は、OpenCVを中心に、画像処理の基礎を学ぶ。機械学習、深層学習を理解し、簡単なプログラムがかけられるようになること、また、OpenCVのような画像処理ライブラリで使われる技術を理解し、簡単なアプリケーションが書けるようになることを授業の到達目標とする。	
データ構造とアルゴリズム	本講義では代表的なデータ構造（配列、線形リスト、スタック、キュー、木）と整列、検索等の基本的なアルゴリズムを学ぶことで、プログラミングの定石を理解し、良いプログラムを書くための基礎を養う。データ構造がプログラム設計において重要な要素であることを理解し、目的に応じて適切なデータ構造を選択するために必要な基礎知識を身につけること、将来情報工学に携わる者の常識として、定番的なアルゴリズムを理解すること、データ構造とアルゴリズムを活用し実際の問題解決に応用する素養を身につけることを授業の到達目標とする。	
応用画像工学	本講義では、デジタル画像処理の基本的な概念と画像処理の応用である医用画像処理、コンピュータグラフィックス、拡張現実などについて学ぶ。また、実際に画像処理の演習を行い、理解を深める。 (オムニバス方式／全15回) (38 伊藤聡志／4回) 医用画像工学について講義する。 (68 長谷川まどか／4回) デジタル画像について講義する。 (162 山登一輝／7回) 画像工学の応用について講義する。	オムニバス方式
化工シミュレーション	化工プロセス計算へのソフトウェア利用と数値計算プログラミングの基礎について深く学ぶ。PCソフトウェアによる化工プロセス計算と数値計算プログラミングを理解し、応用できることを到達目標とする。	
機械数理Ⅱ	常微分方程式の基礎知識を習得し、機械系に生じる振動現象について学ぶ。 本授業は、 (1) 常微分方程式の基礎を理解すること (2) 機械振動に関する基礎知識を習得し問題解決に応用できること (3) 授業計画に基づき、自主的学習能力と学習習慣を身につけることを到達目標とする。	

		<p>シミュレーションサイエンス</p>	<p>現象をモデル化し、それを計算機上に再現して物性の推定や将来予測などを行うコンピューター・シミュレーションは、現在では理論、実験に続く第3の科学的手法として認知されている。本講義では、積分や連立方程式、微分方程式などをコンピューター上で計算するための基本的な手法を前半に講義し、後半では、実際に科学の世界でどのようにシミュレーションが研究に活かされているのかの実践例をオムニバス形式で紹介する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(21 横田隆史／1回) 数の表現と演算 整数・実数の表現形式 高性能計算システム (32 矢嶋徹／1回) 非線形波動のシミュレーション (43 石田邦夫／1回) 物質の電子状態計算と量子ダイナミクス (44 古神義則／1回) 電磁界シミュレーション (51 佐藤正秀／1回) 化学プラントのシミュレーション (115 藤村隆史／2回) シミュレーションサイエンス、ナノ構造の光学応答シミュレーション (121 茨田大輔／7回) 初等関数、線形連立方程式、固有値問題、画像・図形の表現方法、数値積分法、微分方程式、光学シミュレーション (145 石戸勉／1回) 流れのシミュレーション</p>	<p>オムニバス方式</p>
		<p>森林空間情報工学</p>	<p>対象が広域で多様性を持っている森林の現状把握、モニタリングに必要となるリモートセンシングを中心にGIS（地理情報システム）、GNSS（衛星測位システム）等の空間情報工学技術について講述する。リモートセンシングの基礎的な知識、技術を身につけ、GIS（地理情報システム）、GNSS（衛星測位システム）等の空間情報工学技術と連携して実践的に活用できるような知識能力を習得する。</p>	

国立大学法人宇都宮大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	
宇都宮大学				
地域デザイン科学部		3年次		
コミュニティデザイン学科	50	-	200	
建築都市デザイン学科	50	3	206	
社会基盤デザイン学科	40	3	166	
国際学部		3年次		
国際学科	90	10	380	
共同教育学部				
学校教育教員養成課程	170	-	680	
工学部		3年次		
基盤工学科	315	26	1,312	
農学部				
生物資源科学科	63	-	252	
応用生命化学科	32	-	128	
農業環境工学科	32	-	128	
農業経済学科	36	-	144	
森林科学科	32	-	128	
(3年次編入学)	-	3年次 18	36	
計	910	60	3,760	
宇都宮大学大学院				
地域創生科学研究科				
社会デザイン科学専攻(博士前期課程)	77	-	154	
工農総合科学専攻(博士前期課程)	258	-	516	
先端融合科学専攻(博士後期課程)	25	-	75	
教育学研究科				
教育実践高度化専攻(専門職学位課程)	18	-	36	
計	378	-	781	

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
宇都宮大学				
データサイエンス経営学部		3年次		学部の設置(意見伺い)
データサイエンス経営学科	55	3	226	
地域デザイン科学部		3年次		
コミュニティデザイン学科	47	-	188	定員変更(入学定員△3)
建築都市デザイン学科	47	3	194	定員変更(入学定員△3)
社会基盤デザイン学科	37	3	154	定員変更(入学定員△3)
国際学部		3年次		
国際学科	84	10	356	定員変更(入学定員△6)
共同教育学部				
学校教育教員養成課程	170	-	680	
工学部		3年次		
基盤工学科	290	26	1,212	定員変更(入学定員△25)
農学部				
生物資源科学科	58	-	232	定員変更(入学定員△5)
応用生命化学科	30	-	120	定員変更(入学定員△2)
農業環境工学科	30	-	120	定員変更(入学定員△2)
農業経済学科	33	-	132	定員変更(入学定員△3)
森林科学科	29	-	116	定員変更(入学定員△3)
(3年次編入学)	-	3年次 15	30	定員変更(編入学定員△3)
計	910	60	3,760	
宇都宮大学大学院				
地域創生科学研究科				
社会デザイン科学専攻(博士前期課程)	77	-	154	
工農総合科学専攻(博士前期課程)	258	-	516	
先端融合科学専攻(博士後期課程)	25	-	75	
教育学研究科				
教育実践高度化専攻(専門職学位課程)	18	-	36	
計	378	-	781	